



Teaching and Learning Management ***FACTBOOK 2023***



金沢大学
教学マネジメントセンター



金沢大学 教学マネジメント FACTBOOK 2023

目 次

I. はじめに

1. 巻頭言 . . . 3

II. 大学全体レベル

1. 教育の内部質保証に関する指針の策定 . . . 5
2. 金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS) . . . 8
3. FD・SD 活動の枠組と実績 . . . 11
4. 学生生活実態調査及び卒業・修了後アンケートの結果概要 . . . 13
5. 教学 IR 環境の整備 . . . 24

III. 学位プログラムレベル

1. カリキュラム・マップ, カリキュラム・ツリーの体系的再整備 . . . 27
2. 学類長ヒアリングの実施 . . . 29
3. 卒業・修了者アンケートの結果概要 . . . 31
4. 「学びの計画書」を通した DP 達成度可視化の整備 . . . 32

IV. 授業科目レベル

1. 授業評価アンケートの結果概要 . . . 34
2. 授業評価アンケート結果のレーダーチャート表示の充実 . . . 37

V. 参考資料 (『教学マネジメント指針』(中央教育審議会大学分科会) 別紙 2・3)

1. 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報について (別紙 2) . . . 40
2. 情報公表について (別紙 3) . . . 44

I. はじめに

巻頭言

金沢大学では、令和 3 年 4 月に教学マネジメントセンターを創設しました。令和 2 年 1 月に公表された『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会）に沿って、大学全体レベル・学位プログラムレベル・授業科目レベルの各レベルにおける教学マネジメントを強化すべく、教育担当理事のもとに新しい組織を設置し、その取組を進めています。特に、同指針では、教学マネジメントを支える基盤として「FD・SD の高度化と教学 IR 体制の確立」を求めていることに着目し、エビデンスに基づく教育マネジメントを進める観点から、教育・学修に関するデータの収集・分析・共有に関し、今まで以上に力を注いでいく必要があります。

そこで、教学マネジメントセンターでは、令和 4 年度国立大学経営改革促進事業における大学院改革プロジェクトの採択を受け、『教学マネジメント FACTBOOK2022』を新たに刊行し、金沢大学の教育と学修に関する基本データを整理・共有する取組に着手しました。令和 5 年度においても引き続き、『教学マネジメント FACTBOOK2023』を発刊いたします。

これまでの金沢大学の教育改革は、平成 20 年度の学域・学類制の導入に始まり、平成 28 年度の国際基幹教育院の設置、平成 30 年度の国際基幹教育院総合教育部の設置を通したレイトスペシャライゼーションの導入、令和 3 年度入学者選抜から全学類での後期日程廃止といった一貫した教育改革を通して、学修者本位の教育を理念とし、伝統的なディシプリンを超えた柔軟性ある教育プログラム提供と、学生が自主的に進路選択できる機会提供を図ってきました。さらに、令和 2 年度に採択された文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」では、第 4 の学域である「融合学域」の設置と全学域学生を対象とした「先導 STEAM 人材育成プログラム」の開設を通した、文理融合・分野横断による STEAM 教育の推進によるイノベーション人材育成に邁進しています。

高等教育機関として、どのような場面にあっても、教育成果と学修成果を把握・確認しながら、さらなる向上を図っていくことが求められています。『教学マネジメント FACTBOOK 2023』の刊行を契機に、今後とも、教学マネジメントの取組に、ご理解とご支援を賜れば幸いです。

令和 6 年 3 月

金沢大学 教学マネジメントセンター

Ⅱ. 大学全体レベル

Ⅱ 大学全体レベル

金沢大学では、大学全体レベルの教育・学修目標として、平成 26 年度に採択された「文部科学省・スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）」の取組において、金沢大学＜グローバル＞スタンダードを策定し、人材育成の中心に据えていることが特徴である。

1. 教育の内部質保証に関する指針の策定

本学は、『金沢大学憲章』において「専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成すること」を掲げ、平成 28 年度には、世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成のための本学独自の教育方針である「金沢大学＜グローバル＞スタンダード（Kanazawa University “Global” Standard ; KUGS）」を策定した。この大学全体レベルの教育方針に則り、全学類において「3つのポリシー」を通じた教育・学修目標の具体化を行っている。

令和 3 年 4 月に設置された教学マネジメントセンターでは、『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会）が示す「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」の各レベルに応じた教学マネジメントを徹底するため、学修成果や教育成果を定量的または定性的なエビデンスに基づき評価することを目的に、下表のようなアセスメントプランに関する枠組を提示してきた。

図表Ⅱ-1 金沢大学におけるアセスメントプラン概要一覧

項 目 レベル	教育・学修目標	改善充実のための機会 (FD・SD)	アセスメントツール (教学IR)
大学全体レベル (マクロ)	金沢大学 ＜グローバル＞スタンダード (KUGS)	全学FD 新任教員説明会	学生生活実態調査 卒業・修了後アンケート
学位プログラムレベル (ミドル)	(各学類、専攻で定めた) ディプロマ・ポリシー (DP)	全学FD 学域・学類、研究科FD	卒業・修了者アンケート DP達成度自己評価
授業科目レベル (ミクロ)	(シラバスに明記された) 学修目標	全学FD 学域・学類、研究科FD 新任教員説明会 CLA研修	授業評価アンケート 成績評価分布

その後、令和 6 年 2 月には、アセスメントプランに当たる「教育の内部質保証に関する指針」（次ページ参照）を新たに策定し、学位プログラムを中心としたモニタリング・レビューの仕組みを明文化した。具体的には、「大学全体」「学位プログラム」「授業科目」の各レベルに応じた日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）の方法を規定し、各学位プログラムの責任者は、毎年度 1 回の日常的な点検（モニタリング）及び 7 年に 1 回の総合的な点検・評価（レビュー）の結果について、教育担当理事・副学長に報告すること、さらには、教育の内部質保証の推進責任者である教育担当理事・副学長は、教

育企画会議の議を経て、内部質保証の統括責任者（学長）に報告することを明記した。そして、日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）において参照すべき各種調査データ提供及び分析等について、各学位プログラムの責任者からの依頼の下、教学マネジメントセンターが支援することとした。

今後は、同指針に沿って、大学全体・学位プログラム・授業科目レベルの教学マネジメントを徹底し、教育の内部質保証の向上に努める。

（参考）

金沢大学における教育の内部質保証に関する指針

（令和 6 年 2 月 9 日 令和 5 年度第 12 回教育企画会議決定）

1. 趣旨

本指針は、大学設置基準第 1 条第 3 項の規定に基づき、金沢大学が教育の状況を点検及び評価し、自ら改善及び改革を行う内部質保証を有効に機能させるために定める。

2. 目的

大学設置基準第 2 条の 2 及び第 19 条第 1 項並びに学校教育法施行規則第 165 条の 2 の規定に基づき、「入学者の受入れに関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」「卒業又は修了の認定に関する方針」（以下、「三つの方針」という。）に沿った教育の内部質保証体制を整え、教育課程の編成等や自己点検・評価、認証評価の結果を踏まえた不断の見直しを行うとともに、教育の実質化等による質向上を図る。

3. 方法

教育の内部質保証については、「教学マネジメント指針」（中央教育審議会大学分科会（令和 2 年 1 月 22 日））に沿って、「大学全体レベル」「学位プログラムレベル」「授業科目レベル」の 3 つのレベルに分けて捉える。

大学全体レベルについては、教育企画会議及びその下に設置された専門委員会が、教学マネジメントセンターの支援を受け、日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）を行う。

学位プログラムレベルについては、三つの方針に則しつつ、あらかじめ定めた方法により、日常的な点検（モニタリング）を行うとともに、定期的に、学生が学修目標を確実に達成しているか、その上で改善が必要な事項は何かといった点も含め、様々な角度から掘り下げた分析を行うなど総合的な点検・評価（レビュー）を行うこととし、具体的な方法は次のとおりとする。なお、授業科目レベルについては、学位プログラムレベルに含め、日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）を行う。

(1) 学位プログラムの日常的な点検（モニタリング）として、各学位プログラムの責任者は、毎年度、当該学位プログラムの教育成果・学修成果に関する指標に基づき、日常的な点検を行い、教育担当理事・副学長に報告しなければならない。なお、本学においては、FD

活動報告書を以て充てる。

- (2) 学位プログラムの総合的な点検・評価（レビュー）として、各学位プログラムの責任者は、原則として7年に1回、毎年度点検（モニタリング）する教育成果・学修成果等について、学生が学修目標を確実に達成しているか、その上で改善が必要な事項は何かといった点も含め、様々な角度から掘り下げた分析を行い、教育担当理事・副学長に報告しなければならない。
- (3) 毎年度1回の日常的な点検（モニタリング）及び7年に1回の総合的な点検・評価（レビュー）の結果について、教育の内部質保証の推進責任者である教育担当理事・副学長は、教育企画会議の議を経て、内部質保証の統括責任者（学長）に報告する。報告を受けた内部質保証の統括責任者は、必要に応じて推進責任者に改善を指示し、推進責任者は教育企画会議に改善方針等を示し、改善活動を行う。

4. 教育成果・学修成果に関する各種調査データ

日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）において参照すべき各種調査データは、次のとおりとする。

- (1) 日常的な点検（モニタリング）及び総合的な点検・評価（レビュー）を行う際には、表に掲げる各種調査データを参照しながら、点検・評価を行わなければならない。
- (2) 表に掲げる各種調査データのほか、必要に応じ、在学者、卒業・修了者、企業等から大学全体及び学位プログラム等に関する意見聴取を行い、点検・評価に資することが推奨される。
- (3) (1)及び(2)に関する各種調査データの提供及び分析等について、各学位プログラムの責任者からの依頼の下、教学マネジメントセンターが支援する。

5. 雑則

本指針に定めるもののほか、教育の内部質保証に関し必要な事項は、別に定める。

表 教育成果・学修成果に関する各種調査データ一覧

調査名	指標	頻度	教学マネジメントレベル
新入生アンケート	志望理由，大学における学修に対する期待，入学者選抜に対する意見，希望進路，アドミッション・ポリシー，入試広報活動，入学後の学修・学生生活	毎年度（入学時）	大学全体レベル 学位プログラムレベル
授業評価アンケート	授業内容の適切性，担当教員の説明の仕方，授業外学修時間，授業理解度，学修目標達成度，授業満足度	毎年度（毎クォーターまたはセメスター）	授業科目レベル 学位プログラムレベル

学生生活実 態調査	金沢大学＜グローバル＞スタンダードの修得度、住居・通学手段、経済状況、学修時間、学修環境・学生支援満足度、課外活動・福利厚生施設への要望、その他要望事項	2年に1回	大学全体レベル 学位プログラムレベル
卒業・修了者 アンケート	ディプロマ・ポリシー達成度、学修及び学生生活の満足度、その他必要な事項	毎年度	大学全体レベル 学位プログラムレベル
卒業・修了後 アンケート	在学中に身につけるべき能力の就職後の活用度、職業満足度、年収、その他必要な事項	毎年度（原則として、卒業・修了後3年の者を対象）	大学全体レベル 学位プログラムレベル
就業先アンケート	在学中に身に付けるべき能力の実装度及び期待度、就職活動に対する対応度、その他必要な事項	2年に1回	大学全体レベル 学位プログラムレベル

2. 金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）

金沢大学は、本学の活動が21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組み、北陸さらには東アジアにおける「知の拠点」として、グローバル化の進む世界に向けて情報を発信することとし、その拠って立つ理念と目標を金沢大学憲章として制定している。

この金沢大学憲章では、教育について次の2点を謳っている。

- 金沢大学は、各種教育機関との接続、社会人のリカレント教育、海外からの留学、生涯学習等に配慮して、多様な資質と能力を持った意欲的な学生を受け入れ、学部とそれに接続する大学院において、明確な目標をもった実質的な教育を実施する。
- 金沢大学は、学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする。また、教育改善のために教員が組織的に取り組むFD活動を推進して、専門知識と課題探求能力、さらには国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成する。

こうした本学の理念・目標の実現へ向けての大きな改革の一つとして、平成18（2006）年度に従来の教養教育を、導入教育や基盤教育などの幅広い教育内容を含む「共通教育」ということばに切り替え、教養的科目から「共通教育科目」に名称変更した。

平成28（2016）年4月から始まった第3期中期目標には、「主体性を涵養する教育により、学士課程においては、専門分野における確かな基礎学力と総合的視野を身に付け、国際性と地域への視点を兼ね備えた人材を育成するとともに、大学院課程においては、高度な専門的知識・技能と学際性を兼ね備え、国際的視野を有する研究者及び専門職業人等、グローバル化する社会を積極的にリードする人材を育成する。」と明記した。この目標を実現す

るために、国際基幹教育院を創設し、世界で活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成のための本学独自の教育方針である「金沢大学＜グローバル＞スタンダード（Kanazawa University “Global” Standard ; 以下「KUGS」という。）」を制定した。

学士課程における KUGS は次の 6 項目で構成している。

1. 自己の立ち位置を知る：

鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力
2. 自己を知り、自己を鍛える：

自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力
3. 考え・価値観を表現する：

論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力
4. 世界とつながる：

他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土の文化への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力
5. 未来の課題に取り組む：

科学技術の動向、自然環境変動、持続可能性などの多角的視座から、地球と人類、国際社会と日本の未来を総合的に予測し、未来の課題に取り組んでいく能力
6. 新しい社会を生きる：

Society 5.0 において幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドを備え、多様な他者との協働により未知の社会的課題を解決に導くための能力

本学は、この KUGS を基軸とした、学士課程教育の基盤をなす授業科目である Global Standard 科目（GS 科目）および Global Standard 言語科目（GS 言語科目）を中心とする体系的なカリキュラムを実施している。



図表 II-2 金沢大学＜グローバル＞スタンダード（学士課程版）と GS 科目一覧

金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS) については、上記の学士課程版に加え、大学院課程における KUGS が以下のとおり定められている。令和4年度からは、大学院学生のトランスファラブルスキルの修得等を目的として、大学院 GS 基盤科目及び大学院 GS 発展科目が全研究科の大学院学生対象に提供されている。

(a) 自文化に対する自覚と異文化への理解だけでなく国際社会で活躍しようとする気概すなわちグローバルマインドと、(b) 明確な倫理的思考の二つの観点において、学士課程<グローバル>スタンダードを高度先鋭化したものとして本学大学院課程<グローバル>スタンダードを定める。

すなわち、本学大学院は、学士課程<グローバル>スタンダードにおいて謳われている、(1)「自己の立ち位置を知る力」、(2)「自己を知り、自己を鍛える力」(3)「考え・価値観を表現する力」、(4)「世界とつながる力」、(5)「未来の課題に取り組む力」、(6)「新しい社会を生きる力」という6つの能力・体力・人間力を大学院カリキュラムの学修を通して、さらに高度先鋭化させ、強固なグローバルマインドと明確な倫理的思考の二つの観点から、創造的な視点と粘り強い交渉力、強い統率力と確かな実践力をもって、人類の未来を切り拓く使命に果敢に挑戦する高度専門人材を育成する。

1. 強固なグローバルマインドと明確な倫理的思考：

今後、人類が直面するグローバルな課題に果敢に挑戦し、常に一個の人間として、確たる倫理的普遍性をもった見識と判断の下に責務を遂行する能力

2. 創造性・交渉力・統率力・実践力：

解決困難な課題にも、革新的なアイデアと粘り強い交渉力を発揮し、強い統率力と確かな実践力をもって局面を打開する能力



図表Ⅱ-3 大学院 GS 基盤科目及び大学院 GS 発展科目の概要図

3. FD・SD 活動の枠組と実績

令和 3 年 4 月に、教学マネジメントセンターが設置されたことに伴い、教育担当理事及び学長補佐（教育改革・学修支援担当）の指示のもと、全学的視点に立った FD・SD 活動を行いながら、部局 FD との協働・連携・支援を行っていく必要がある。このため、「全学 FD・SD」と「部局 FD」の関係性について事項整理しながら、「全学 FD・SD」で担うべきこと、「部局 FD」で担うべきことを明確化することとした。

【「全学 FD・SD」の役割と基本メニュー】

①「全学 FD・SD」の役割

- ◆大学の理念や基本方針の理解と共有
- ◆教職員として知っておくべき事項、遵守すべき事項の理解と共有
- ◆各年度における教学関連の全学的課題の理解と共有
- ◆教職協働，教職学協働のための場づくり

②「全学 FD・SD」の年間メニュー（基本セット）

図表 II-4 全学 FD・SD の年間メニュー（基本セット）

時期	内容
4月	新任教員説明会
4月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）研修会，高度TA研修会
9月	全学FD研修会
10月	FD活動報告書成果発表会
12月	教学マネジメントセミナー（全学FD・SD）
2月	CLA（クラス・ラーニング・アドバイザー）実施報告会
2月または3月	教員向け英語研修会
3月	全学FD研修会（当該年度成果報告会）

【「部局 FD」の役割と基本メニュー】

①「部局 FD」の役割

- ◆各部局における主要事項の理解と共有
- ◆各部局における各年度での諸課題の理解と共有
- ◆各部局における授業・カリキュラム，学修状況・成果の把握・検証
- ◆各部局における全学的課題の理解と共有

②「部局 FD」の基本メニュー

各部局に応じた組織単位での実施を尊重しつつ、部局主催での FD 活動について、以下の二つの区分に整理した。

ア) 個別テーマ型 FD・・・各部局における主要事項の理解と共有、各部局における各年度での諸課題の理解と共有を目的として、当該部局が独自のテーマ設定により実施する FD

イ) 統一テーマ型 FD・・・全学的課題の理解と共有などを目的として、教学マネジメントセンター等が連携・支援しながら実施する FD

(授業評価アンケートや卒業・修了者アンケート等の結果報告、機関別認証評価で求められる学位プログラム単位の DP・CP, カリキュラム・マップ, カリキュラム・ツリーに関する点検・見直しなど)

令和 5 年度においては、FD 委員会及び教学マネジメントセンターが企画実施する定例的な全学 FD 研修会に加え、先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) の周知を主な目的とした、教職学協働型の KU-STEAM ランチョンセミナーを昨年度に続き企画実施した。また、高大接続コア・センターと共同主催した「探究・STEAM フェスタ」についても昨年度に続き企画実施し、高校生・高校教員と大学生・大学院学生・大学教員が集う対話の場づくりを設けることができた。

本学では、各種セミナー・シンポジウム等を「知識集約型社会を支える人材育成事業」幹事校企画として学外に広く公開するとともに、録画データ及び配布資料を学内ポータルサイトに公開・配信している。なお、令和 5 年度に入り対面での実施が主となっているが、対面とオンラインそれぞれのメリットを活かした効果的な FD 機会を提供している。

令和 5 年度全体の FD・SD 実績は以下のとおりである。

図表 II-5 令和 5 年度 FD・SD 実績の概要

内 容	開催月日	参加者数
新任教員説明会	4月4日 (火) 午前の部 4月4日 (火) 午後の部	53名 83名
KU-STEAMランチョンセミナー	4月下旬～11月上旬 計9回開催	323名
全学FD研修会 「分野を超えた専門知の組み合わせとは～Society5.0における人材育成の姿～」	8月8日 (火)	118名 (学外公開)
全学FD研修会及びKU-DPアドバイザーボード 「実践インターンシップを通じた学びの成果発表と意見交換」	9月27日 (水)	62名 (学外公開)
全学FD研修会 FD活動報告書成果発表会	10月27日 (金)	51名
「知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)」共通テーマ4参加校合同主催 教学マネジメントセミナー2023 「文理横断・文理融合教育を通じた学修成果の可視化と学生の成長」	11月28日 (火)	166名 (学外公開)
高大接続ラウンドテーブル特別企画 「探究・STEAMフェスタ2023 ～高校生の探究心に火を灯す～」	12月10日 (日)	114名 (学外公開)
令和5年度「知識集約型社会を支える人材育成事業」 採択校合同シンポジウム	2月27日 (火)	145名 (学外公開)

4. 学生生活実態調査及び卒業・修了後アンケートの結果概要

4.1 学生生活実態調査を活用した「金沢大学＜グローバル＞スタンダード（KUGS）」

達成度測定の定期的実施

学生生活実態調査は、2年おきに、学士課程学生を対象に実施している学生調査であり、「大学全体」レベルのアセスメントツールと活用できる学生調査である。本学では、大学全体レベルの教育・学修目標として「金沢大学＜グローバル＞スタンダード」が策定されているが、その達成度について把握・可視化することが不十分であった。そこで、令和5年度実施の学生生活実態調査から、「金沢大学＜グローバル＞スタンダード」に掲げる教育・学修目標の達成度を把握・可視化に活用することとした。

具体的には、学生生活実態調査において、KUGS6項目に掲げるコンピテンシー（能力）の達成度を自己評価する設問を以下のとおり追加することとした。なお、学生生活実態調査を活用した「金沢大学＜グローバル＞スタンダード」の達成度の把握・可視化を継続的に行い、経年変化を確認することとしている。

令和5年度「学生生活実態調査」の結果概要は以下のとおりである。

【回答者数及び回答率】

■ 全学類の全学生7,855人（2023年5月1日現在）のうち回答者は3,435人（回答率：約43.7%）

		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
所属	全体	67.6%	57.2%	43.3%	28.5%	56.7%	28.4%
	融合学域	71.9%	60.3%	41.8%			
	先導学類	69.4%	60.0%	41.8%			
	観光デザイン学類	76.2%	61.1%				
	スマート創成科学類	73.7%					
	人間社会学域	71.1%	64.4%	48.0%	29.4%		
	人文学類	82.2%	73.1%	54.9%	34.4%		
	法学類	65.9%	52.6%	52.1%	33.6%		
	経済学類	61.3%	65.9%	36.8%	20.0%		
	学校教育学類			62.1%	43.2%		
	地域創造学類	73.3%	68.2%	44.6%	27.0%		
	国際学類	71.2%	64.3%	35.6%	17.3%		
	学校教育学類共同教員養成課程	74.4%	64.7%				
	理工学域	66.7%	54.5%	42.1%	26.0%		
	数物科学類	71.4%	53.1%	48.9%	28.0%		
	物質化学類	56.0%	56.8%	34.5%	25.0%		
	3学類一括	66.7%					
	機械工学類		46.3%	35.2%	25.8%		
	フロンティア工学類		57.8%	45.6%	28.8%		
	電子情報通信学類		59.8%	50.0%	17.9%		
	地球社会基盤学類	68.6%	50.5%	45.2%	21.3%		
	生命理工学類	73.1%	60.0%	31.0%	41.2%		
	医薬保健学域	64.4%	48.2%	37.1%	31.2%	24.2%	19.1%
	医学類	60.0%	36.7%	29.8%	24.6%	15.8%	15.1%
	薬学類	85.3%	56.1%	50.0%			
	医薬科学類	65.0%	47.4%	35.7%			
	保健学類	59.4%	52.9%	37.1%	32.7%		
	薬学類・創薬科学類				36.5%	43.2%	30.6%
	総合教育部	62.0%					
	文系一括	62.9%					
	理系一括	61.3%					

令和5年度「学生生活実態調査」に新たに追加した設問と、設問ごとの回答結果は以下のとおりである。

<金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)の達成度>

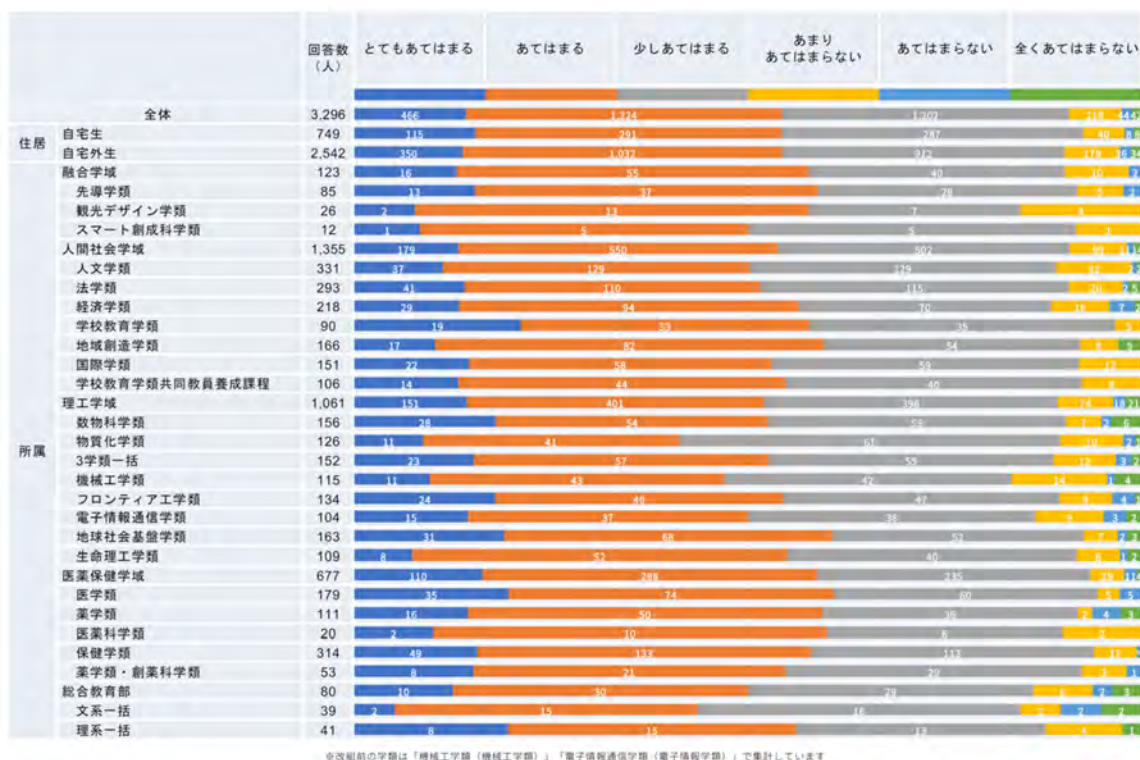
問7.「金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)」に掲げる、次の資質や能力について、あなたはどの程度身につけていると思いますか。それぞれのことがらについて、もっともあてはまるものを一つお選びください。

スタンダード1. 自己の立ち位置を知る:

鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力

問 7-1 あなたは、自分が置かれている状況をできるだけ正確にとらえることによって、自分が何をすべきかを自ら把握することができる。

1. とてもあてはまる 2. あてはまる 3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない 6. 全くあてはまらない



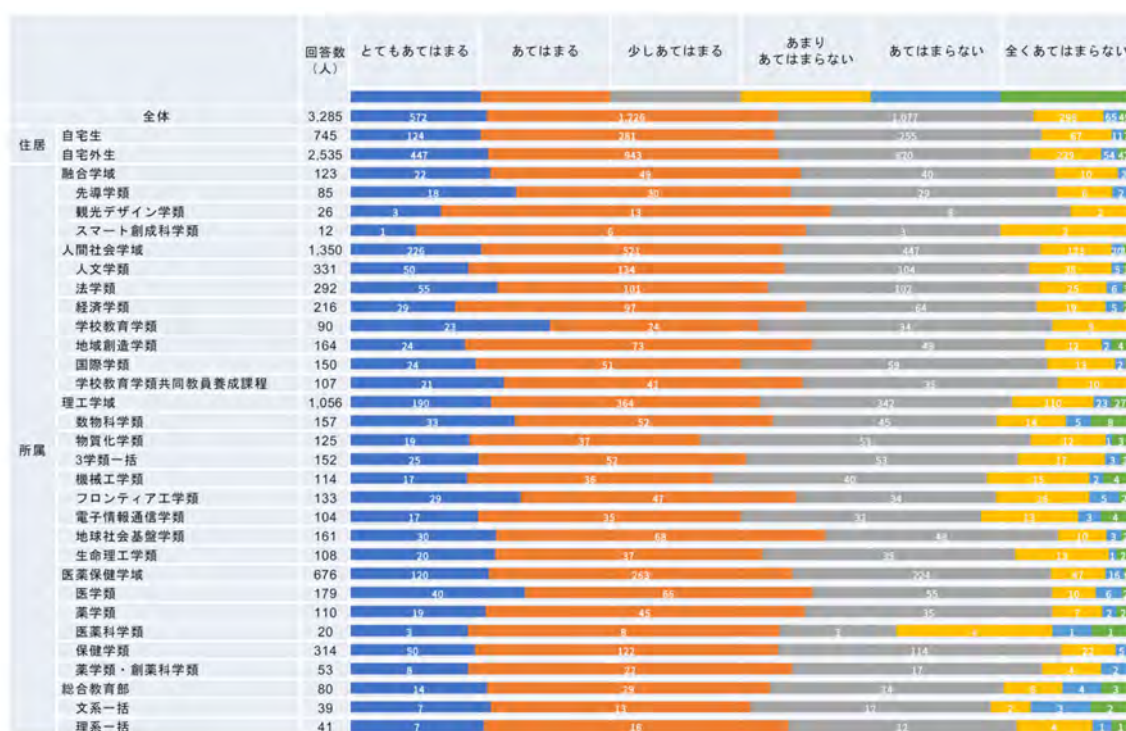
➡先導学類, 地域創造学類, 地球社会基盤学類, 医学類の学生の自己評価が高い傾向にある。

スタンダード２．自己を知り、自己を鍛える：

自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力

問 7-2 あなたは、心と身体の両面において、自己のアイデンティティを認識することができる。

1. とてもあてはまる
2. あてはまる
3. 少しはあてはまる
4. あまりあてはまらない
5. あてはまらない
6. 全くあてはまらない



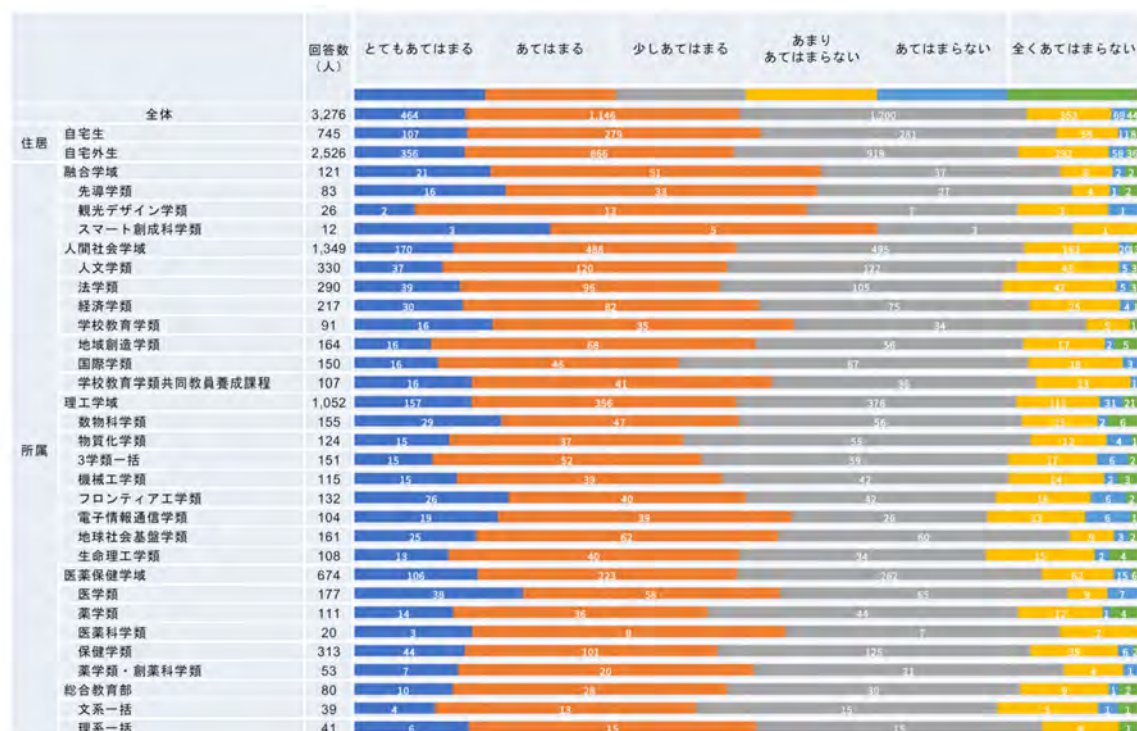
➡観光デザイン学類，地球社会基盤学類の学生の自己評価が高い傾向にある。

スタンダード3 . 考え・価値観を表現する:

論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力

問 7-3-1 言葉や図表によって思考やアイデアなどの自分の考えを明確に表現することができる。

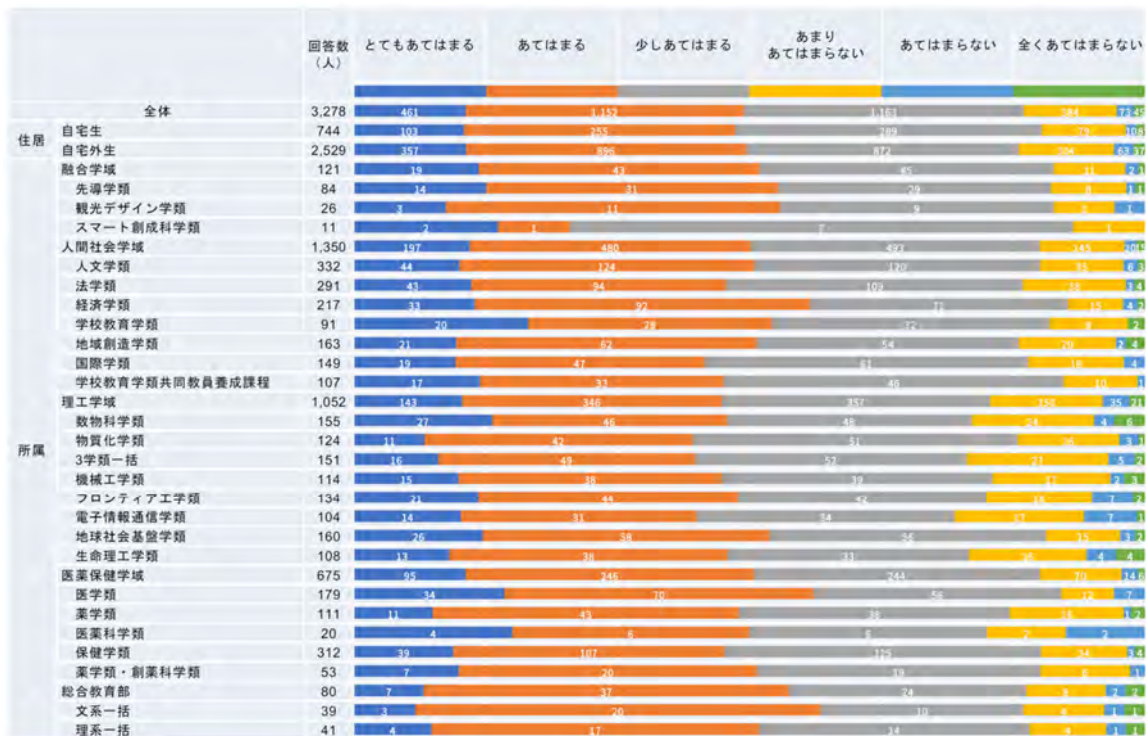
1. とてもあてはまる 2. あてはまる 3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない 6. 全くあてはまらない



➡先導学類、スマート創成科学類の学生の自己評価が高い傾向にある。

問 7-3-2 思考や表現行為の背後にある自分の感性や感情、価値観、ものの見方などを他者に的確に伝えることができる。

1. とてもあてはまる 2. あてはまる 3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない 6. 全くあてはまらない



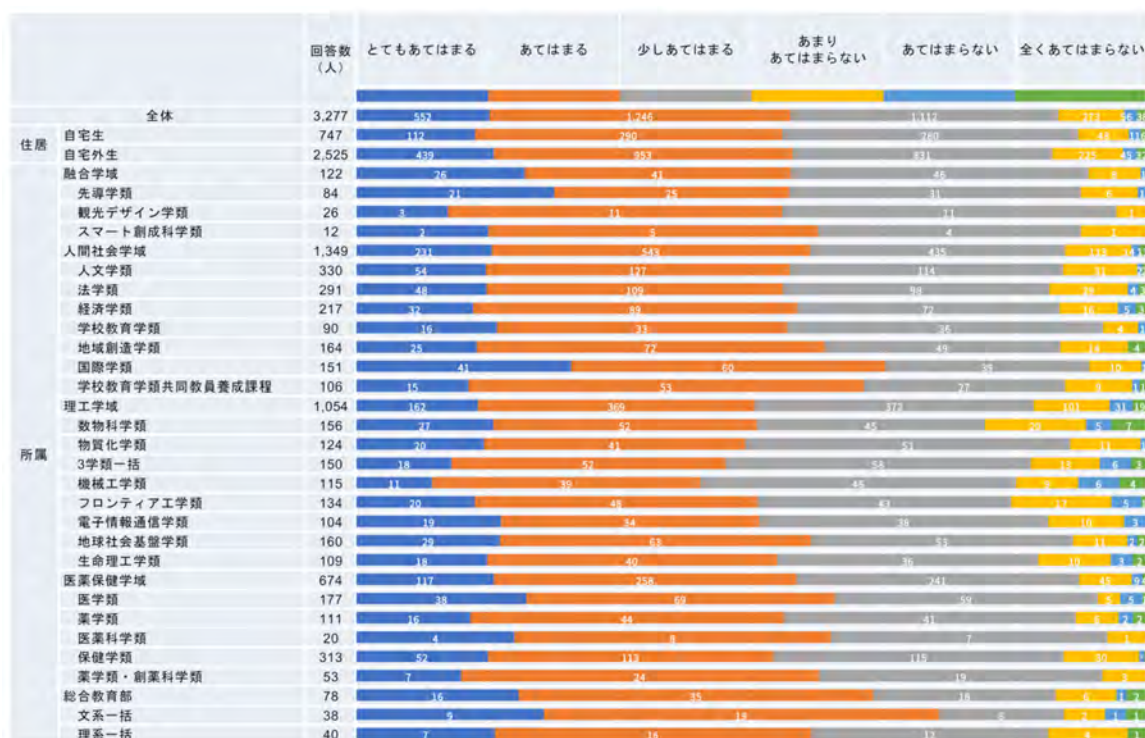
➡経済学類，医学類，総合教育部文系一括の学生の自己評価が高い傾向にある。

スタンダード4：世界とつながる：

他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力

問 7-4 歴史的にも文化的にも自分とは異なる他者と共存・共生することができる。

1. とてもあてはまる
2. あてはまる
3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない
5. あてはまらない
6. 全くあてはまらない



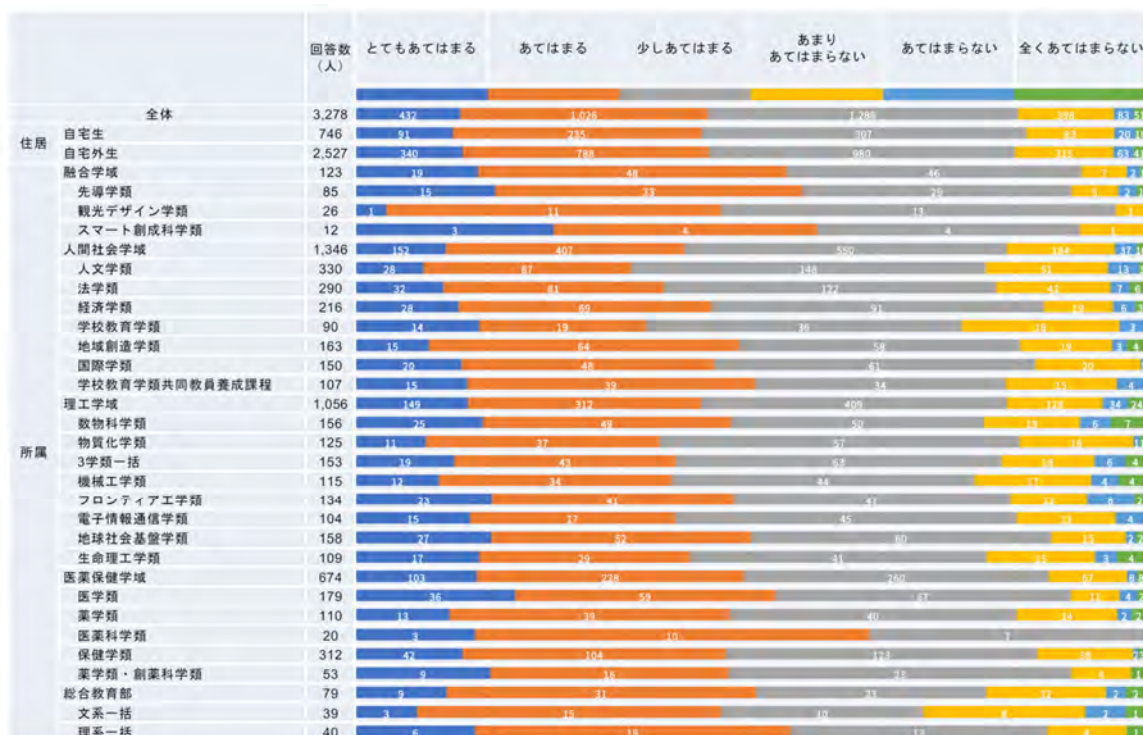
➡国際学類，学校教育学類共同教員養成課程，総合教育部文系一括の学生の自己評価が高い傾向にある。

スタンダード5 . 未来の課題に取り組む:

科学技術の動向, 自然環境変動, 持続可能性などの多角的視座から, 地球と人類, 国際社会と日本の未来を総合的に予測し, 未来の課題に取り組んでいく能力

問 7-5 現在から未来にいたる状況認識に基づいて, 未来の課題に積極的に取り組んでいくことができる。

1. とてもあてはまる
2. あてはまる
3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない
5. あてはまらない
6. 全くあてはまらない



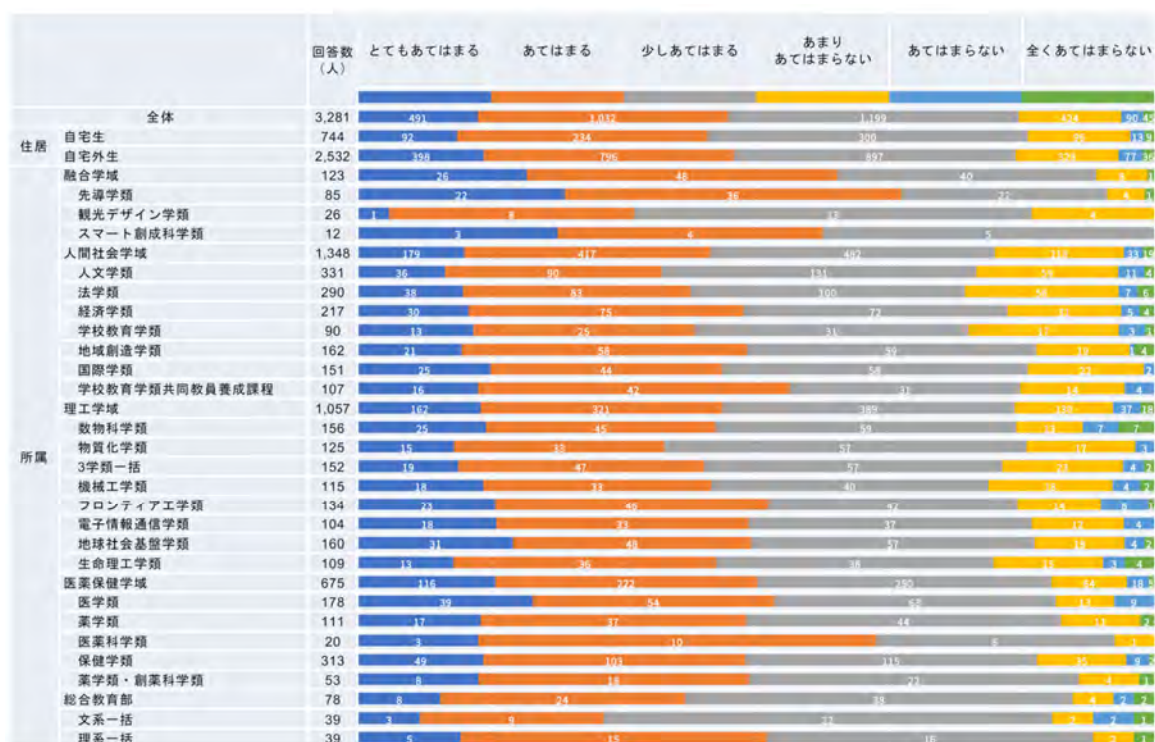
➡先導学類, スマート創成科学類, 医薬科学類, 総合教育部理系一括の学生の自己評価が高い傾向にある。

スタンダード6．新しい社会を生きる：

Society 5.0 において、幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげる力と新たな物事にチャレンジするマインドを備え、多様な他者との協働により未知の社会的課題を解決に導くための能力

問 7-6 幅広い分野や考え方を俯瞰して異分野をつなげるとともに、新たな物事にチャレンジすることができる。

1. とてもあてはまる
2. あてはまる
3. 少しあてはまる
4. あまりあてはまらない
5. あてはまらない
6. 全くあてはまらない



図表Ⅱ-6 令和5年度学生生活実態調査における
「金沢大学＜グローバル＞スタンダード」達成度測定結果概要

➡先導学類、医薬科学類の学生の自己評価が高い傾向にある。

4.2 卒業・修了後アンケートの定期的実施

令和4年度卒業・修了後アンケートについて、前年度同様に、金沢大学IDを活用して実施した。今回は、前回アンケート対象でなかった令和3年度卒業・修了者2,604名を対象に、卒業・修了1年後の状況を調査することを目的として当該アンケートを実施した。

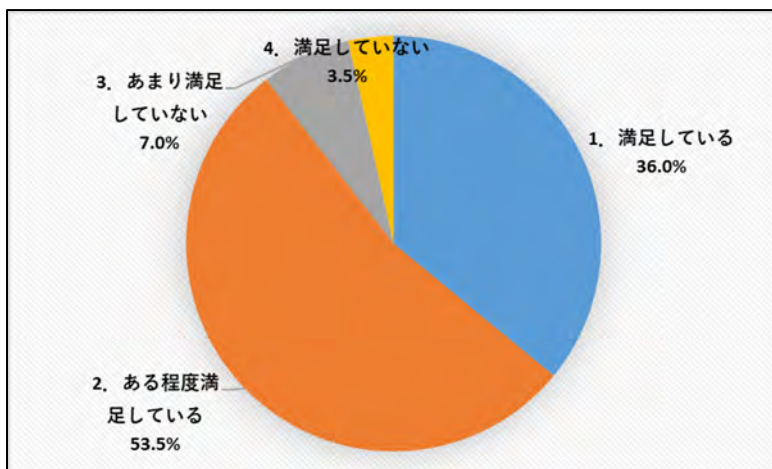
令和5年3月30日～5月12日の回答期間において161件の回答があり、そのうち、有効回答数は159件（対象者2,604名、回答率6.1%）であった。その回答者内訳は下表のとおりである。今後は、金沢大学IDを活用した当該アンケート実施体制が整ったため、卒業・修了後3年または5年の該当者を対象としたアンケートを継続実施することを考えている。

卒業・修了部局	回答者数
人間社会学域	45
理工学域	33
医薬保健学域	24
学士課程 小計	102
人間社会環境研究科	
博士前期課程	9
自然科学研究科	
博士前期課程	29
博士後期課程	6
医薬保健学総合研究科	
博士前期課程	3
博士後期課程	3
博士課程	3
教職実践研究科	4
大学院課程 小計	57
総計	159

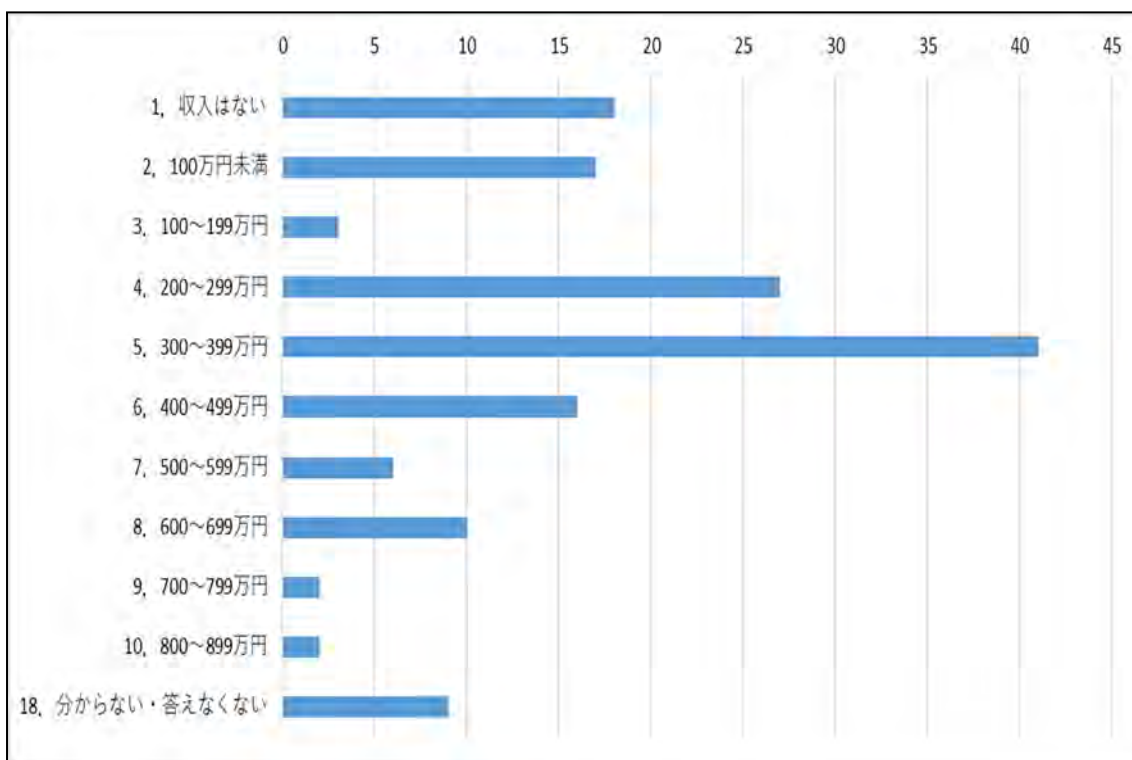
4.2.1 現在の職種（N=113）

	1. 事務職	2. 経営・管理職	3. 技術職	4. 技能職	5. 教育職	6. 研究職	7. 販売・サービス	8. 専門職・自由業	11. アルバイト・派遣社員	その他	総計
人間社会学域	18		4	1	4		5	3		2	37
理工学域	3		4		1						8
医薬保健学域			4	2	2			8			16
人間社会環境研究科											
博士前期課程	4	1		1				1	1		8
自然科学研究科											
博士前期課程			17	2	1	6				1	27
博士後期課程						5					5
医薬保健学総合研究科											
博士前期課程			1			2					3
博士後期課程					2	1					3
博士課程			1					1			2
教職実践研究科					4						4
総計	25	1	31	6	14	14	5	13	1	3	113

4.2.2 現在の職業満足度（N=114）

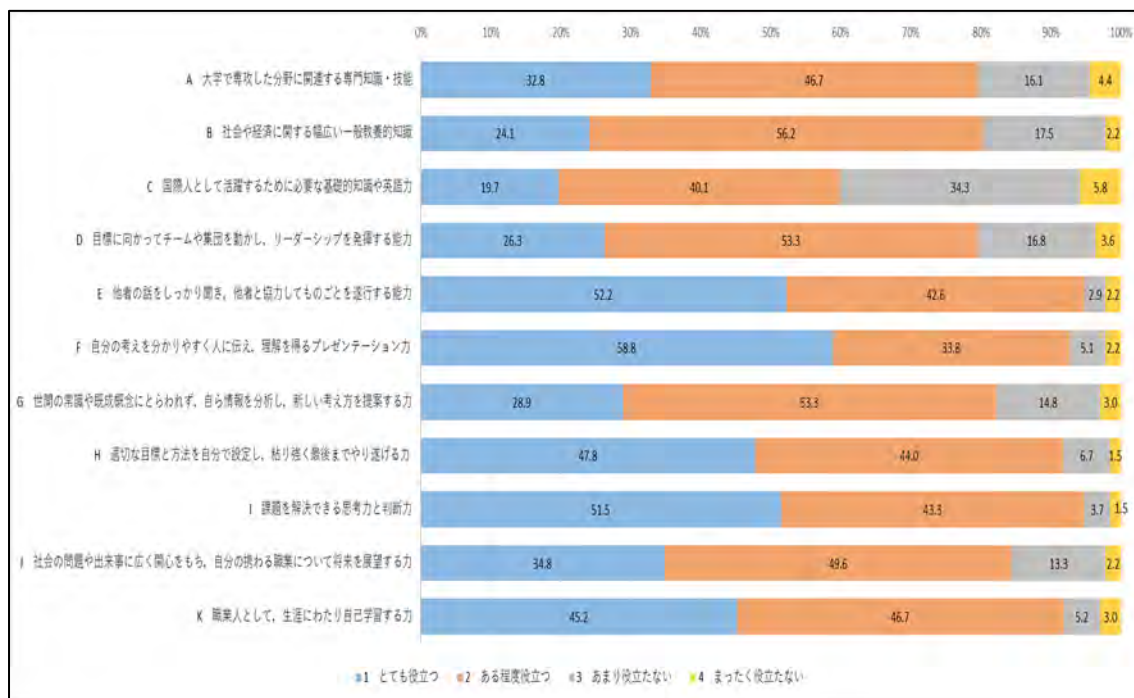


4.2.3 現在の個人年収（N=151）



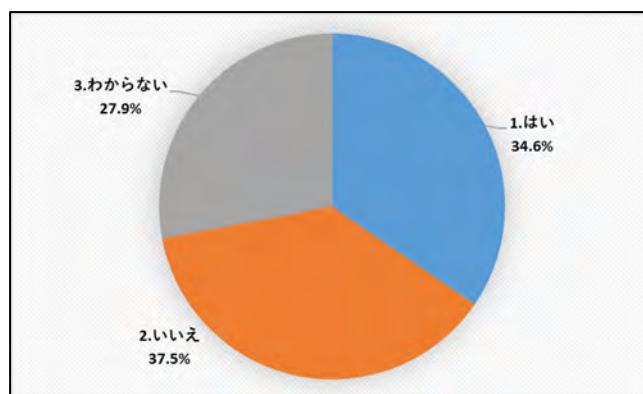
4.2.4 大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合い（N=135）

大学での経験や学修で得られた知識・技能の卒業・修了後のキャリアにおける役立ち度合いでは、「課題を解決できる思考力と判断力」「他者の話をしっかり聞き、他者と協力してものごとを遂行する能力」「職業人として、生涯にわたり自己学習する力」「適切な目標と方法を自分で設定し、粘り強く最後までやり遂げる力」「自分の考えを分かりやすく人に伝え、理解を得るプレゼンテーション力」が特に高い結果となっている。



4.2.5 大学・大学院における学び直しの希望の有無（N=136）

回答者が卒業・修了 1 年後でありながら、問 8 の大学・大学院における学び直しについて、34.6%の割合で希望ありと答えており、学び直し向けの効果的な情報発信等を行っていく必要がある。



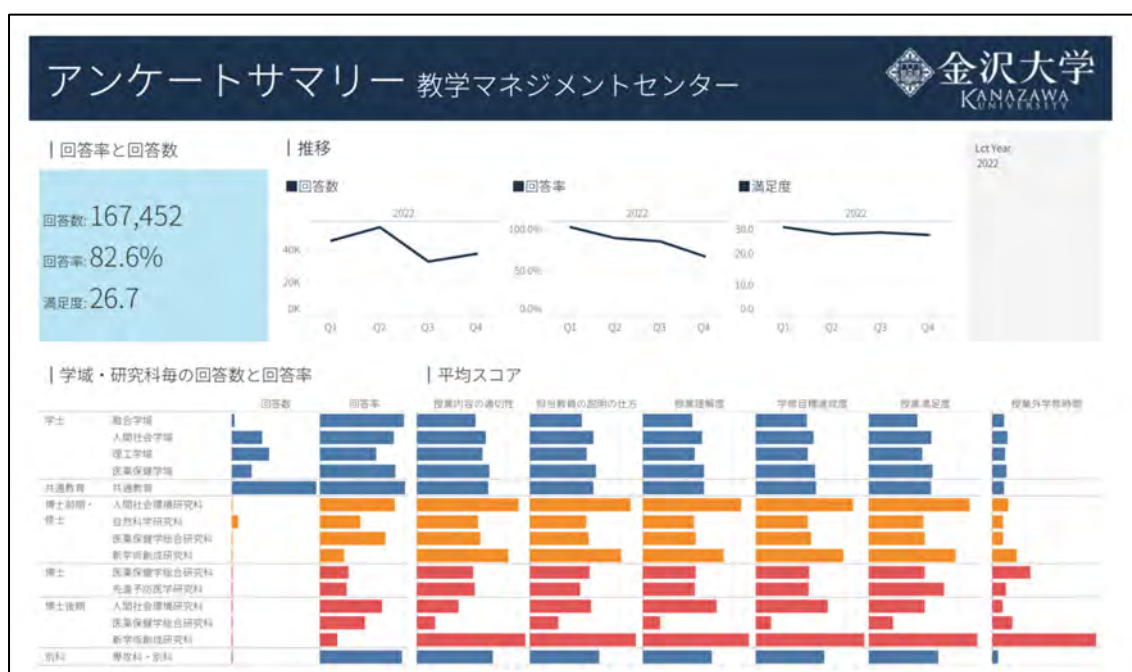
図表 II-7 令和 4 年度「卒業・修了後アンケート」結果概要

5. 教学 IR 環境の整備

令和 3 年度に、教学マネジメントセンターが中心となり、授業評価アンケートにおける共通設問化、卒業・修了者アンケートにおける学生生活満足度の設問の統一化を行うとともに、当該結果の集計を教学マネジメントセンターで行う環境を整備した。

令和 4 年度から令和 5 年度にかけて、FD 委員会を通して、当該集計結果を各部局にフィードバックする環境を整えるとともに、FD 活動報告書における当該集計結果概要を掲載、さらには、教学マネジメント FACTBOOK の刊行にまで漕ぎつけた。

授業評価アンケートについては、BI ツールである Tableau を活用した基礎集計のダッシュボード化（下図参照）を整備し、教学マネジメントセンター及び学務課の関係者にて閲覧できる環境を整備している。令和 5 年度において、授業評価アンケートと同様の定例調査である卒業・修了者アンケートに関する Tableau を活用した基礎集計のダッシュボード化の整備を進めている。



図表 II-8 授業評価アンケート結果ダッシュボード（一部）

【授業評価アンケート、卒業・修了者アンケート結果の閲覧環境整備】

令和 3 年度以前には、各部局において授業評価アンケート結果を集計し、下記サイトに掲載していたが、部局による作業負担軽減の観点から、教学マネジメントセンターにおいて、授業評価アンケートとともに、卒業・修了者アンケート結果の掲載・更新作業を行う。

なお、専門職大学院等において、独自のアンケート実施を行っている部局については、従前のとおり、当該部局において当該アンケート結果の掲載・更新作業を行う。



図表Ⅱ-9 授業評価アンケート結果に関する従前の掲載画面

Ⅲ. 学位プログラムレベル

Ⅲ 学位プログラムレベル

金沢大学では、令和 3 年度に教学マネジメントセンター設置以降、学位プログラムレベルの取組を重要視し、令和 4 年度において学士課程・大学院課程を通した 3 つのポリシーの体系的再整備を行ったことを受けて、令和 5 年度には、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの体系的再整備に取り組んだ。また、学類における教学マネジメントの実態を把握するため、対話型 FD の一環として、学類長ヒアリングを実施した。以上の取組を通して、学位プログラム評価の強化を着実に進めている。

1. カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーの体系的再整備

令和 3 年度機関別認証評価における指摘事項を踏まえ、令和 4 年度には学士課程・大学院課程全般にわたり、ディプロマ・ポリシー（DP）及びカリキュラム・ポリシー（CP）を中心とした 3 つのポリシーの体系的整理を行い、大学 Web サイトで公開した。これを受けて、令和 5 年度には、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの体系的整理を行うとともに、学修成果可視化システム（仮称）運用のための環境を整えた。

なお、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーについては、『教学マネジメント指針』（中央教育審議会大学分科会 2020）において言及があるとおり、学位プログラムレベルの教学マネジメントにおいて、カリキュラム上の各授業科目の位置付けの明確化や授業科目間の相互関連性や順序性を明確化するツールとして重要不可欠なものであり、教育の内部質保証に関する点検項目として認証評価でも重視されている。

（1）カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの再整備

カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーについて、従来、学士課程のみ対象として、作成依頼を行ってきたが、新たに、大学院修士課程・博士前期課程も作成対象に追加し、再整備を行った。なお、カリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリーの作成依頼にあたり、教学マネジメントセンターにおいて、作成マニュアル及びテンプレートを提示するなどの支援を行った。

（2）学修成果可視化システム（仮称）運用のための環境整備

カリキュラム・マップを活用し、学生個々人の学修度を可視化する仕組みを新たに導入することとしている。融合学域では、同学域が開発した「学びの計画書」を通して先行実施しているが、各学位プログラムの DP に関する授業科目の単位修得に応じて、学修度をカウントする学修成果可視化システム（仮称）を全学的に運用予定である。このシステムにより、学生自身の学修目標設定と振り返りを通した主体的な学びの実現が期待される。

このため、（1）で作成依頼するカリキュラム・マップにおける授業科目ごとの関係する DP へのマーク付けを従来のような「◎」「○」「△」といった重み付けをなくし、「○」のみのマーク付けに簡素化を図った。

①学類，専攻単位で作成する。

②専門教育における科目区分及び授業科目名を各行に列挙する。

③DP において記載している「学生が身に付けるべき資質・能力」を項目立てし、各列に記載する。

④各授業科目（到達目標）と DP（学生が身に付けるべき資質・能力）との対応関係を「○」印で明記する。特に、対応関係が明確なものに「○」印を付すこととし、「○」印の偏りが生じないように考慮する。

図表Ⅲ-1 カリキュラム・マップテンプレート（抜粋）

[illegible]

①学類，専攻単位で作成する。授与する学位が複数ある部局にあっては，授与する学位ごとに作成する。

②DP において記載している「学生が身に付けるべき資質・能力」を項目立てし、各列に記載する。

③授業科目の履修年次ごとに並べる（共通教育から専門教育まで記載）。

④授業科目を区分・カテゴリーに分ける。

⑤授業科目間の関係性を矢印などで図示する。

⑥DP と授業科目・授業科目群との対応関係を色付けや枠取りなどで分かりやすく図示する。

⑦分野ごとのカリキュラム構造に沿って、図示しやすい形式でまとめる。

【カリキュラム・ツリーテンプレート】

図表Ⅲ-2 カリキュラム・ツリーテンプレート（抜粋）

学域名

学類名

プログラム・コース・専攻名

授与する学位

※必ず記載すること。

※必ず記載すること。

※プログラム・コース・専攻名は、必要に応じて、記載すること。

※必ず記載すること。授与する学位ごとにカリキュラム・ツリーを別冊に作成すること。

【カリキュラム・ツリーテンプレート（縦）】

※4年制・6年制の教育課程（行）及びDP項目数（列）を適宜、加除修正して作成すること。

		DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6
開校年度	科目レベル						
4年次	必修						
3年次	必修						
2年次	必修						
1年次	導入						

2. 学類長ヒアリングの実施

近年、ディプロマ・ポリシー（DP）やカリキュラム・ポリシー（CP）を軸とした3つのポリシーに基づく学位プログラムレベル及び全学レベルの教学マネジメントが重視されている。教学マネジメントセンターでは、各学類における教育・学修の実態について把握し、教学マネジメントの更なる充実に資することを目的に、学類長及び教務担当教員を対象としたヒアリング調査を実施することとした。

併せて、昨年度の「知識集約型社会を支える人材育成事業」中間評価結果を踏まえ、全学で進める文理融合教育について専門教育の観点から更なる充実を図る必要性があることから、各学類における文理融合・分野横断教育の実態を把握することも目的とした。

【調査対象・実施時期】

調査対象：人間社会学域・理工学域・医薬保健学域の全17学類

（※融合学域は、別途、「知識集約型社会を支える人材育成事業」中間評価対応で個別調査）

対応者：学類長及び教務担当教員

実施時期：令和5年4月28日（金）～6月15日（木）1時間～1時間半程度

【調査項目】

以下の項目を事前に送付し、半構造化インタビュー形式で行った。なお、以下の項目以外に、「学類における教学関係会議」「全学委員会から依頼事項に対する学類内での作業系統」

「各年次における学生支援（アドバイザー教員，指導教員等）」のほか，「カリキュラム・マップ，カリキュラム・ツリーの活用度合」「卒業・修了者アンケート結果の活用度合」を聴取した。

- ①学類における DP・CP の認知度及び学生への説明機会について
- ②学類におけるカリキュラム・シラバス・成績評価分布・授業評価アンケートの定期的点検について
- ③専門教育の特徴・強み及び現在，学類が抱える教育上の課題について
- ④学類における学生の学修行動・学修成果の把握について
- ⑤学類における文理融合・分野横断教育について
- ⑥卒業論文・卒業研究の評価方法や評価基準について
- ⑦学類学生に対する研究指導体制について
- ⑧学類における FD 活動について
- ⑨学類におけるキャリア支援や留学支援について
- ⑩その他

【ヒアリング調査結果概要】

＜教学マネジメント関係＞

- (1) 3つのポリシーの認知度，カリキュラム・マップ，カリキュラム・ツリーの活用度合について，一層の改善充実が必要である。履修案内（学生の手引き）において，3つのポリシー，カリキュラム・マップ，カリキュラム・ツリーを掲載している部局が少なく，今後，ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを掲載することが推奨される。
- (2) 卒業・修了者アンケート結果の部局内共有が不十分な部局が見られた。今後，卒業・修了者アンケート結果の有効活用について，全学 FD 委員会等を通して周知徹底していく必要がある。
- (3) 授業科目レベルにおけるシラバス作成の徹底や授業評価アンケート結果の確認は，どの部局においても行われている。なお，学校教育学類において，人間社会学域での授業評価アンケート実施クラス要件が「受講者数 20 名以上」となっていることについて改善の必要性をコメントされた。

＜専門教育カリキュラムの工夫＞

- (4) 今回の学類長ヒアリング調査を通して，コースやプログラム単位で閉じることがないように，カリキュラム上の工夫を施している学類が相当数見られた。この傾向は，学域・学類制の本来の趣旨を押さえながら，分野横断型の教育を提供しようとする意図が感じられる。具体的には，学校教育学類共同教員養成課程，地域創造学類（プログラム移行後），薬学類，医薬科学類では，年次を超えた学生交流機会（先輩の発表を後輩が聴講するなど）や複数の研究室体験・取材を授業科目化しているケースが見られる。

＜専門教育における学修成果の把握＞

- (5) 学位プログラムとしての学修成果の把握の好事例として，薬学類「薬学研究」「実務実習」におけるルーブリック活用や保健学類看護学専攻における卒業時の看護分野知

識・技能に関するチェックリスト活用が挙げられる。また、法学類では、専門教育科目における筆記試験の模範解答を学内限定で学生に開示しており、専門教育科目の質保証を図っている好事例として挙げられる。このほか、国際学類では、卒業論文に求められる観点を履修案内において明示している。

＜TA等の研修の再整理の必要性＞

- (6) 授業補助、実験補助を行うTAを対象とした研修やマニュアルが不十分な印象を受けた。今後、設置基準改正に伴う「指導補助者」の扱いが重要視される中で、CLA研修、高度TA研修を含めた体系的再整備が必要と思われる。

＜教学IRに関する案件＞

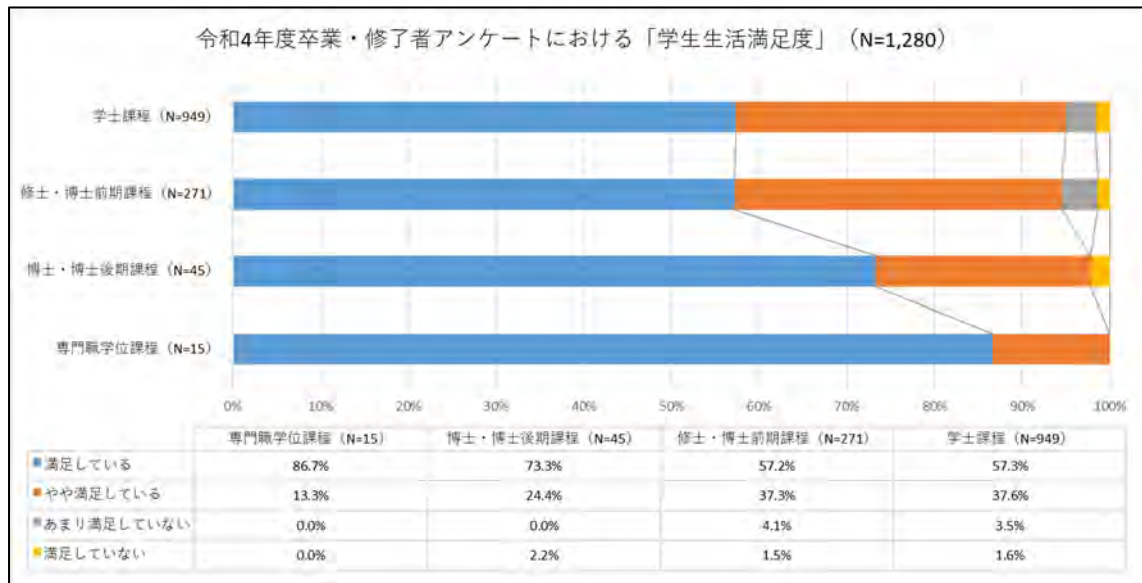
- (7) 入学区分の違いによる入学後の学業状況、進路要件及び卒業研究着手要件における学生の履修状況について確認を行った。

3. 卒業・修了者アンケートの結果概要

令和4年度卒業・修了者アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。学士課程においては、回答率が大幅に改善された。今後も、この傾向を続け、更なる回答率の向上が求められる。また、大学院課程においては、全体的に、回答率改善のための一層の努力が必要である。

令和4年度卒業・修了者アンケート回答率概要		
部局名	回答率	(参考) 令和3年度回答率
【学士課程】		
人間社会学域	53.9%	47.5%
理工学域	48.2%	21.9%
医薬保健学域	78.3%	41.8%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	50.0%	79.4%
自然科学研究科	38.4%	25.3%
医薬保健学総合研究科	81.4%	55.8%
新学術創成研究科	88.9%	5.6%
法学研究科	100.0%	—
【博士後期課程・博士課程】		
人間社会環境研究科	55.6%	71.4%
自然科学研究科	3.7%	8.9%
医薬保健学総合研究科	71.2%	61.4%
先進予防医学研究科	—	66.7%
新学術創成研究科	66.7%	—
【専門職学位課程】		
法学研究科	—	100.0%
教職実践研究科	100.0%	92.3%

令和3年度から全学共通で4件法で設問している「学生生活満足度」の回答結果について、前年度同様、どの教育課程においても、概ね満足度が高い結果となっている。



図表Ⅲ-3 令和4年度「卒業・修了者アンケート」結果概要

4. 「学びの計画書」を通した DP 達成度可視化の整備

令和5年度において、前年度からシステム整備していた融合学域「学びの計画書」の新システム運用が開始された。既述のカリキュラム・マップ再整備を反映した DP (ディプロマ・ポリシー) 達成度可視化のほか、特別プログラム等の履修実績等を一覧にて可視化する環境整備、さらには、就職活動等において、学生が自分自身の学修成果を説明するエビデンスとして活用する環境が整った。

今後は、令和6年度以降において、融合学域以外の他学域への当該システムの全学展開を検討している。



図表Ⅲ-4 システム整備した「学びの計画書」に関するイメージ画面

IV. 授業科目レベル

IV 授業科目レベル

金沢大学では、授業科目レベルの基本となるシラバスの改善充実を徹底するとともに、授業評価アンケート結果に基づく授業改善及びカリキュラム改善のための FD 活動を習慣化している。令和 3 年度には、授業評価アンケートシステムの大幅な刷新を行い、教学マネジメントセンターにおいて回答結果を集計・分析しつつ、学域・研究科にフィードバックする教学マネジメントサイクルの構築を進めている。

1. 授業評価アンケートの結果概要

1.1 令和 4 年度授業評価アンケート回答率

令和 4 年度授業評価アンケート回答率について、前年度との比較は以下のとおりである。令和 4 年度より、新システムによる授業評価アンケート実施を行うことで、学士課程を中心に、回答率が大幅に改善された。

令和4年度授業評価アンケート回答率概要

部局名	回答率	(参考) 令和3年度回答率
【学士課程】		
共通教育	99.1%	37.0%
融合学域	98.4%	61.1%
人間社会学域	85.9%	16.3%
理工学域	65.5%	20.0%
医薬保健学域	88.6%	27.7%
【博士前期課程・修士課程】		
人間社会環境研究科	87.7%	25.8%
自然科学研究科	47.0%	7.3%
医薬保健学総合研究科	77.1%	48.7%
新学術創成研究科	27.3%	21.0%
法学研究科	—	11.1%
【博士後期課程・博士課程】		
人間社会環境研究科	72.7%	25.0%
医薬保健学総合研究科	35.3%	32.1%
先進予防医学研究科	30.8%	59.2%
新学術創成研究科	20.0%	—
【専門職学位課程】		
法学研究科	63.5%	65.5%
教職実践研究科	100.0%	99.3%

1.2 令和 4 年度授業評価アンケート共通設問結果概要

令和 3 年度内に整備し、令和 4 年度から開始された新・授業評価アンケートシステムによる共通設問 6 項目（①授業内容の適切性、②担当教員の説明の仕方、③授業外学修時間、④授業理解度、⑤学修目標達成度、⑥授業満足度）に関する回答結果の概要が以下のとおりである。共通設問化により、経年比較だけでなく、部局間比較が可能となり、授業科目レベルでの教学マネジメントに役立っている。

(学士課程)

学域名	課程区分	学類名	回答数	回答率	①授業内容の適切性 (～50～50の101段階 のスコア平均)	②担当教員の説明の仕方 (～50～50の101段階 のスコア平均)	③授業外学習時間 (授業1回あたりの 時間数平均)	④授業理解度 (～50～50の101段階 のスコア平均)	⑤学習目標達成度 (～50～50の101段階 のスコア平均)	⑥授業満足度 (～50～50の101段階 のスコア平均)
共通教育	学士		71,698	99.1%	31.6	28.2	3.4	27.1	26.7	27.5
総合学域	学士	先端学類	2,008	98.2%	25.7	22.7	3.4	21.6	22.3	21.0
		観光デザイン学類	143	100.0%	31.4	28.9	2.6	24.8	26.6	27.4
		計	2,151	98.4%	26.1	23.1	3.3	21.8	22.6	21.4
人間社会学域	学士	人文学類	5,435	85.8%	31.5	31.2	4.1	29.0	27.8	31.0
		法学類	6,665	88.3%	30.2	27.3	5.1	24.4	23.8	26.5
		経済学類	4,634	83.9%	27.3	24.5	3.9	22.5	22.1	23.7
		学校教育学類共同教員養成課程	408	73.9%	34.7	34.2	2.8	34.1	33.6	33.6
		学校教育学類	2,504	85.0%	32.3	30.1	4.3	29.5	28.0	28.9
		地域創造学類	3,503	87.6%	29.3	26.5	4.4	25.0	24.3	25.9
		国際学類	2,617	85.1%	34.3	31.3	3.6	29.8	29.0	31.5
		計	25,766	85.9%	30.5	28.3	4.3	26.3	25.5	27.7
理工学域	学士	数物科学類	3,125	63.3%	29.5	26.1	5.3	23.0	22.8	25.7
		物質化学類	4,163	68.0%	29.9	26.3	3.6	23.0	23.3	24.7
		機械工学類	4,574	58.8%	26.1	22.7	2.7	19.9	19.9	20.2
		フロンティア工学類	5,364	66.2%	27.2	23.1	3.3	21.9	22.1	22.0
		電子情報通信学類	4,589	69.7%	30.7	25.0	3.8	22.0	22.5	23.4
		地球社会基盤学類	5,758	69.8%	29.3	25.8	3.1	24.0	23.8	24.3
		生命理工学類	2,981	78.3%	31.6	29.4	3.6	27.3	25.8	28.1
		数値・資格(科目管理用)	996	65.7%	28.0	26.4	3.6	24.5	24.3	24.8
		計	31,550	65.5%	29.0	25.2	3.5	22.9	22.8	23.8
医歯保健学域	学士	医学類	3,568	68.3%	31.3	29.9	3.3	25.7	24.3	26.8
		歯学類	2,902	96.9%	32.7	30.8	3.1	27.6	26.7	29.0
		医歯科学類	645	91.9%	29.9	27.6	2.5	25.4	23.8	26.3
		保健学類	9,325	96.7%	32.5	29.1	5.0	27.9	27.3	28.7
		計	16,440	88.6%	32.2	29.5	4.2	27.2	26.4	28.2

(大学院課程)

学域名	課程区分	学類名	回答数	回答率	①授業内容の適切性 (～50～50の101段階 のスコア平均)	②担当教員の説明の仕方 (～50～50の101段階 のスコア平均)	③授業外学習時間 (授業1回あたりの 時間数平均)	④授業理解度 (～50～50の101段階 のスコア平均)	⑤学習目標達成度 (～50～50の101段階 のスコア平均)	⑥授業満足度 (～50～50の101段階 のスコア平均)
人間社会環境研究科	博士前期	人文学専攻	17	81.0%	34.8	34.7	8.5	34.2	33.2	36.0
		経済学専攻	21	91.3%	49.1	47.6	4.9	46.9	47.4	47.5
		地域創造学専攻	34	94.4%	48.4	48.7	3.9	48.5	47.9	48.1
		国際学専攻	35	83.3%	44.7	44.3	3.3	41.1	41.2	43.7
	計		107	87.7%	45.2	44.8	4.6	43.5	43.3	44.7
人間社会環境研究科	博士後期	人間社会環境学専攻	8	72.7%	18.4	27.0	2.9	32.6	32.1	24.9
自然科学研究科	博士前期	数物科学専攻	671	50.4%	25.8	24.0	3.1	20.0	19.3	21.7
		物質化学専攻	545	41.7%	19.6	18.5	2.7	17.1	16.4	18.1
		機械科学専攻	778	50.0%	31.8	30.7	2.7	26.3	27.2	28.2
		フロンティア工学専攻	1,201	41.4%	24.6	21.8	3.7	20.5	21.3	21.7
		電子情報通信学専攻	701	60.3%	33.2	29.1	3.6	26.3	27.3	28.8
		地球社会基盤学専攻	543	48.7%	26.5	25.1	3.1	22.4	23.6	25.2
		生命理工学専攻	267	41.0%	26.6	25.8	1.9	25.9	24.9	28.2
	計		4,706	47.0%	27.0	24.9	3.2	22.4	22.8	24.2
医薬保健学総合研究科	博士	医科学専攻	134	76.6%	35.6	33.0	2.1	32.0	31.1	32.4
医薬保健学総合研究科	博士前期	創薬科学専攻	328	77.4%	25.1	23.1	3.7	19.7	21.8	21.5
	博士後期	創薬科学専攻	12	52.2%	8.0	12.5	5.9	7.6	6.9	10.7
医薬保健学総合研究科	博士	医学専攻	33	27.7%	22.8	24.5	12.3	22.4	22.0	23.2
	博士	薬学専攻	8	100.0%	32.6	33.9	6.1	26.3	29.9	32.6
	計		41	32.3%	24.8	26.3	11.1	23.1	23.6	25.0
先進予防医学研究科	博士	先進予防医学共同専攻	12	30.8%	25.5	22.1	3.8	22.9	23.2	33.4
新学術創成研究科	博士前期	融合科学共同専攻	36	28.8%	38.2	40.9	1.6	39.8	41.1	41.2
		ナノ生命科学専攻	32	25.8%	43.5	40.1	13.5	31.5	36.5	35.6
	計		68	27.3%	40.7	40.5	7.2	35.9	38.9	38.5
	博士後期	融合科学共同専攻	1	20.0%	48.0	47.0	30.0	47.0	48.0	48.0

1.3 共通教育科目 GS 科目 1～6 群の回答結果比較

令和 3 年度から共通教育科目 GS 科目に新たに 6 群が加わり、1 群から 6 群における共通設問「①授業内容の適切性」「②担当教員の説明の仕方」「③授業外学修時間」「④授業理解度」「⑤学修目標達成度」「⑥授業満足度」の 6 項目について比較を行った。5 群の科目が全項目において他群に比べ、平均スコアが高くなっている。また、新設された 6 群では、前年度同様に、「授業外学修時間」が多くなっていることが特徴的である。

		回答数	回答率	①授業内容の適切性 (～50～50の101段階 のスコア平均)	②担当教員の説明の仕方 (～50～50の101段階 のスコア平均)	③授業外学修時間 (授業1回あたりの 時間数平均)	④授業理解度 (～50～50の101段階 のスコア平均)	⑤学修目標達成度 (～50～50の101段階 のスコア平均)	⑥授業満足度 (～50～50の101段階 のスコア平均)
共通教育 GS科目	1群	5,165	98.3%	29.6	26.1	3.0	24.3	24.6	25.1
	2群	6,384	98.1%	31.9	29.7	2.9	27.7	27.3	29.4
	3群	4,483	98.8%	30.5	28.0	2.6	26.6	26.3	27.9
	4群	4,493	98.2%	30.2	27.8	3.1	26.1	25.6	26.7
	5群	5,416	98.6%	33.5	31.6	3.7	29.7	28.3	29.9
	6群	5,401	99.2%	30.3	25.1	3.5	24.2	24.6	25.5

図表Ⅳ-1 令和 4 年度授業評価アンケート結果概要

2. 授業評価アンケート結果のレーダーチャート表示の充実

教学マネジメントセンターでは、FD 委員会を通して、令和 3 年度までに授業評価アンケートの共通設問項目を整理したことを踏まえ、令和 4 年度より新しい授業評価アンケートシステムを運用し、共通設問項目の回答結果を各部局にフィードバックしている。令和 5 年度において、図表Ⅳ-2、図表Ⅳ-3 のとおり、各授業科目担当教員が授業改善を検討する際の参考となるよう、授業評価アンケート結果における共通設問項目の平均値と各授業科目の値をレーダーチャートで比較できる機能を追加した。比較対象は次のとおりである。

- 共通教育科目の授業評価アンケートの場合：当該アンケート実施期間における共通教育全科目の平均値
- 学域・研究科開講科目の授業評価アンケートの場合：当該アンケート実施期間における授業開講学域・研究科及び学類・専攻の平均値（ただし、医薬保健学域・研究科の授業開講学域・研究科及び学類・専攻の平均値は同一）



図表IV-2 共通教育科目における授業評価アンケート結果閲覧画面（担当教員用）



図表IV-3 専門教育科目における授業評価アンケート結果閲覧画面（担当教員用）

V. 参考資料（『教学マネジメント指針』
（中央教育審議会大学分科会）別紙 2・3）

「Ⅲ 学修成果・教育成果の把握・可視化」 関係

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の
達成状況を明らかにするための
学修成果・教育成果に関する情報について

別紙2

- ・以下の表に掲げる情報は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするためのエビデンスとして使用可能な、学修成果・教育成果に関する情報である。
- ・これらの情報について、「卒業認定・学位授与の方針」の各項目にひも付けて整理し、分かりやすい形でまとめなおすことが考えられる（別紙1参照）。
- ・これらの情報や学生の学修履歴・活動履歴を体系的に蓄積・収集し、大学のみならず一人一人の学生が様々な形で自らが身に付けた資質・能力のエビデンスとして活用できるようにするためには、学修ポートフォリオの利用等が効果的に機能するものと考えられる。また、学修ポートフォリオに蓄積された学修成果・教育成果に関する情報をエビデンスとして用いて、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得状況を評価することも考えられる。
- ・なお、これらの情報は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報として考えられるものをあくまで例として示したものである。また、学位プログラムの内容やその学修目標により、これらの情報（特に（2）に分類されたもの）の収集の必要性・重要性は異なるものと考えられる。
- ・本表を参考としつつ、各大学の自主的・自律的な判断とその責任の下で、学位プログラムの内容やその学修目標に応じた学修成果・教育成果の把握・可視化や、そのために必要な情報の策定・開発が進められることが期待される。

（1）大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において学内で収集可能と考えられるものの例

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
各授業科目における到達目標の達成状況	・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて設定された個々の授業科目の到達目標をどの程度の水準で達成できているかを明らかにする ・学生が、個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を獲得してゆく過程を明らかにする	・学生が単位を修得した授業科目に関する以下の情報 ・授業科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準、成績評価手法及び評定の分布状況 ・学生個人の評定及び同一科目履修者内での当該評定の位置付け ・個々の学生の修得単位数、単位修得の履歴及びその時点において標準的に期待される修得単位数 （これらを組み合わせて分析することで、学生が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力をどの程度満たしているかを一定程度説明することができる。）	・シラバスの収集 ・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
学位の取得状況	・学生が、個々の授業科目の履修の結果として、「卒業認定・学位授与の方針」に定める資質・能力を備えていることを明らかにする	・学生が取得した学位に関する以下の情報 ・学位の名称、学位に係る「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力及び当該学生が属する学位プログラムにおいて当該学位を取得するために要する平均年数 ・学生が学位取得に要した年数及び上記平均年数との比較	・学位授与履歴を収集
学生の成長実感・満足度	・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められたそれぞれの資質・能力をどの程度身に付けられているか等に関する学生の主観的な評価を明らかにする ・大学が、ある学位プログラムに所属する学生から「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の育成に関してどのような評価を受けているかを明らかにする	・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に対する主観的な評価の平均値 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に対する個々の学生の主観的な評価	・学生へのアンケート調査を通じた収集

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法									
進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）	・大学が、進学や就職等を希望する学生に対して進路を保証できているかを明らかにする ・大学が「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される人材育成を行っているか否かを、進学先の大学院や就職先の企業等における評価と対照することを通じて明らかにする	・学生の進路（進学、就職等）に対する希望状況 ・学位プログラム修了者の進路（進学先や就職先等）及びその全体状況（修了者の総数を分母とする進路毎の割合等） ・特定の職域の人材育成を目指すなど、「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される進路がある場合には、実際の進路動向との一致の程度	・進路が決定した学生へのアンケート調査を通じて収集 ・「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される特定の進路の有無についてあらかじめ分析した上で、一致の程度について分析									
修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率	・厳格な成績評価が行われていることを前提に、大学が、修業年限期間内において学生の資質・能力を計画的に伸ばし、学位の取得まで到達させていることを明らかにする	・学位プログラム毎の、各年度における入学者の修業年限期間が満了した時点での卒業生、在学者、退学者の数と割合（標準年限期間内に学位を取得していない者については、取得に至っていない原因毎の数と割合） ・ある学位プログラムにおいて学位を取得するために要する平均年数	・学位授与履歴を収集									
学修時間	・単位制度の趣旨を踏まえ、学生が授業内及び授業外で取り組む学修の時間及び平均時間を明らかにすることで、学生が、学位プログラムが期待する水準の資質・能力を身に付けるための一般的な前提条件を満たしているかを明らかにする	・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生が授業内外それぞれの学修に費やした時間の平均値（①）及び当該学生の履修科目数等から想定される授業内外それぞれの学修時間数の平均値（②） ・個々の学生が授業内外それぞれの学修に費やした時間数（③）及び当該学生の履修科目数等から想定される授業内外それぞれの学修時間（④） ・上記①及び②、①及び③並びに③及び④の比較 <参考><table><tr><td></td><td>全体</td><td>個人</td></tr><tr><td>実測時間</td><td>①（平均値）</td><td>③</td></tr><tr><td>想定時間</td><td>②（平均値）</td><td>④</td></tr></table>		全体	個人	実測時間	①（平均値）	③	想定時間	②（平均値）	④	・学生へのアンケート調査を通じた収集 (※) 今後新たに調査・収集を行う大学においては、例えば以下のような手法での調査・収集が考えられる。 ・学修時間の集計単位：1時間単位での把握 ・集計期間の選定：試験直前期や長期休暇期間などを除く平均的な一週間における学修時間 (※) 学修時間以外の生活時間の調査についても、学修成果・教育成果の把握・可視化の観点から併せて行うことも考えられる ・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
	全体	個人										
実測時間	①（平均値）	③										
想定時間	②（平均値）	④										

（２）教学マネジメントを行う上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
「卒業認定・学位授与の方針」に定められた特定の資質・能力の修得状況を直接的に評価することができる授業科目における到達目標の達成状況	・ 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち、左記の科目により直接的に評価することができるものをどの程度の水準で備えているかを明らかにする ・ 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち左記の科目により直接的に評価することができるものを獲得してゆく過程を明らかにする	・ 学生が単位を修得した左記の授業科目に関する以下の情報 ・ 科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準、成績評価手法及び評定の分布状況 ・ 学生個人の評定及び同一科目履修者内での当該評定の位置付け ・ 個々の学生の修得単位数、単位修得の履歴及びその時点において標準的に期待される修得単位数 ・ 左記の資質・能力の取得状況	・ 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
卒業論文・卒業研究の水準	・ 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた専門教育に係る資質・能力を総合的にどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにする ・ 専門教育に係る資質・能力以外のものについても、学位プログラムが提供する教育の集大成である卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生の様々な活動を通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けているかを明らかにすることができる	・ 卒業論文・卒業研究に対する評定により直接的に測定することができる「卒業認定・学位授与の方針」に定める専門教育に係る資質・能力 ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の卒業論文・卒業研究に対する指導教員等の評定の分布状況 ・ 個々の学生の卒業論文・卒業研究に対する指導教員等の評定 ・ 卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生の様々な活動を通じて、「卒業認定・学位授与の方針」に定める専門教育に係る資質・能力以外の資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力の達成状況	・ 卒業論文・卒業研究の評価により明らかにすることができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち専門教育に係る資質・能力との関係の整理 ・ 卒業論文作成・卒業研究実施の成果物に対する指導教員等の評定（例えば、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち専門教育に係る資質・能力を中心として、これらに関連するルーブリック等を用いて評価したものなど） （※成果物に対する評定に加え、卒業論文作成・卒業研究実施の過程に対し適切に評価することも重要。）
アセスメントテストの結果	・ 学生が、当該アセスメントテストにより測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得しているかを明らかにする ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにすることができる	・ アセスメントテストにより測定することができる資質・能力 ・ 上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（アセスメントテストにより測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるものか、等） ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況 ・ 個々の学生のアセスメントテストの受験状況、その結果及び上記平均値との比較	・ アセスメントテストにより測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるアセスメントテスト（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべきアセスメントテスト）の特定 ・ 大学として結果を把握すべきアセスメントテストを受験した学生からの報告による結果の収集 （※「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を測定するためにアセスメントテストを利用する場合、大学は、当該テストの目的や測定方法が当該資質・能力の測定にとって適切なものであるかを、慎重に検証する必要がある。）

情報	①把握・可視化の意義	②把握・可視化することが考えられる内容	③把握・可視化の方法
語学力検定等の学外試験のスコア	・ 学生が、当該試験により測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得しているかを明らかにする ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにすることができる	・ 学外試験により測定することができる資質・能力 ・ 上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（学外試験により測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況 ・ 個々の学生の学外試験の受験状況、その結果及び上記平均値との比較	・ 学外試験により測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる学外試験（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき学外試験）の特定 ・ 大学として結果を把握すべき学外試験を受験した学生からの報告による結果の収集 （※「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を測定するために学外試験を利用する場合、大学は、当該試験の目的や測定方法が当該資質・能力の測定にとって適切なものであるかを、慎重に検証する必要がある。）
資格取得や受賞、表彰歴等の状況	<資格取得の状況> ・ 学生が、当該資格の取得のために求められる資質・能力を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする ・ 当該資格の取得により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力の一部を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする <受賞、表彰歴等の状況> ・ 学生が、当該受賞、表彰等のために求められる資質・能力を高い水準で身に付けることができていることを明らかにする ・ 当該受賞、表彰等により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにすることができる	<資格取得の状況> ・ 資格の取得により証明される資質・能力 ・ 上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（資格取得により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生における資格取得の状況 ・ 個々の学生の資格取得の状況 <受賞、表彰歴等の状況> ・ 受賞、表彰等により証明される資質・能力 ・ 上記の資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（受賞、表彰等により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・ 同一の学位プログラムに属する学生のそれぞれの受賞・表彰等の状況 ・ 個々の学生の受賞・表彰等の状況	<資格取得の状況> ・ 資格取得により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる資格（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき資格）の特定 ・ 上記の資格の取得に関する試験等を受験した学生からの報告による結果の収集 <受賞、表彰歴等の状況> ・ 受賞や表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる賞や表彰制度等の特定 ・ 上記の賞や表彰制度等について受賞し又は表彰等された学生からの報告による情報の収集
卒業生に対する評価	・ 進学先の大学院や就職先の企業などにおける卒業生に対する評価を通じて、学位プログラムを修了した学生が、実際に「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を身に付けているかを明らかにする	・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力に照らした、実際の卒業生に対する雇用主や進学先の指導教員からの評価	・ 卒業生の雇用主や進学先の指導教員からのアンケート・ヒアリング等により収集
卒業生からの評価	・ 学位プログラムにおける学修や教育が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得に資するものであったかや、学位プログラムを通じて身に付けた資質・能力が、進学先や就職先でどのように役立っているかを、進学・就職から一定期間経過した卒業生からの評価により明らかにする	・ 卒業生が、学位プログラムを通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を習得することができたか ・ 進学・就職等の進路毎に、どのような資質・能力が役立っているかについての、卒業生からの評価	・ 卒業生からのアンケート・ヒアリング等により収集

- ・以下の表に掲げる情報は、大学における学修成果や教育成果、これらを保証する条件に関する情報として公表する意義があるものと考えられる情報であり、（１）「『卒業認定・学位授与の方針』に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報の例」と（２）「学修成果・教育成果を保証する条件に関する情報の例」の２項目について、それぞれ①「大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの」と②「教学マネジメントを確立する上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報」に分類している。
- ・これらの情報は、公表が考えられるものをあくまで例として示したものである。また、学位プログラムの内容やその学修目標により、特に②の情報の収集・公表の必要性・重要性は異なるものと考えられる。
- ・これらの項目も参考としつつ、各大学の自主的・自律的な判断とその責任の下で情報公表が進められることが期待される。
- ・これらの情報のうち、特に（１）①に分類されるものについては、社会からその公表が強く期待されている学修成果・教育成果に係るものであることから、早期に情報公表が進められることが強く期待される。
- ・情報の公表に当たっては、利用者が適切に情報を取り扱うことができるようにする観点から、大学として理解を促進するための適切な分析や解説を、その根拠と併せて付するとともに、利用者の便宜に配慮した方法で行うことが求められる。
- ・以下、学校教育法施行規則（昭和２２年文部省令第１１号）を「規則」、大学設置基準（昭和３１年文部省令第２８号）を「基準」とそれぞれ略記する。

（１）「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の達成状況を明らかにするための学修成果・教育成果に関する情報の例

情報		①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
①大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの	各授業科目における到達目標の達成状況	・学生が、個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を獲得してゆく過程について、全体的な状況を明らかにする	・同一の学位プログラムに属する学生の単位修得に関する以下の情報 ・入学年度別・年度毎の平均履修単位数（※） ・入学年度別・年度毎の平均修得単位数（※） （※）必修科目、選択科目及び自由科目で細分化することも考えられる。 （学修時間や学事暦の柔軟化の状況、履修単位の登録上限設定の状況、GPAの活用状況と併せて分析を行い、公表することが有益） - 関連する法令等：基準第３２条	・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
	学位の取得状況	・個々の授業科目の履修の結果として「卒業認定・学位授与の方針」に定める資質・能力を備えた学生が何人卒業しているかを明らかにする	・学位プログラムが授与した学位の名称と授与者の数 ・当該学位に係る「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力 - 関連する法令等：規則第１７２条の２第１項第１号、第４号及び第６号	・学位授与履歴を収集
	学生の成長実感・満足度	・学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められたそれぞれの資質・能力をどの程度身に付けられているか等に関する学生の主観的な評価について、全体的な状況を明らかにする ・大学が、ある学位プログラムに所属する学生から「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の育成に関してどのような評価を受けているかについて、全体的な状況を明らかにする	・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の伸長に対する主観的な評価の年度毎の平均値及び分布その他の全体的な状況	・学生へのアンケート調査を通じた収集

情報		①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
	進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）	・進学や就職等を希望する学生の進路状況を明らかにする	・学位プログラム毎の以下の情報 ・就職を希望した学生数を分母とする就職者の割合 ・学生の主な就職先 ・進学を希望した学生数を分母とする進学者の割合 ・学生の主な進学先 ・特定の職域の人材育成を目指すなど、「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される進路がある学位プログラムにおいては、当該プログラムの卒業生数を分母とする当該進路への就職者の割合及び主な就職先 (卒業生に対する評価や卒業生からの評価と併せて分析を行い、公表することが有益) 関連する法令等：規則第 1 7 2 条の 2 第 1 項第 4 号 関連する調査等：「大学等卒業者の就職状況調査¹」	・進路が決定した学生へのアンケート調査を通じて収集 ・「卒業認定・学位授与の方針」に照らして期待される特定の進路の有無についてあらかじめ分析した上で、一致の程度について分析
	修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率	・厳格な成績評価が行われていることを前提に、大学が、修業年限期間内において学生の資質・能力を計画的に伸ばし、学位の取得まで到達させていることを明らかにする ・履修単位の登録上限設定の状況や G P A の活用状況と組み合わせて分析することで、大学が、密度の高い学修を可能とする環境を提供していることや、厳格な成績評価に基づく質の高い教育を提供していることを示すことができる重要な情報の一つとなる	・学位プログラム毎の、各年度における入学者の修業年限期間が満了した時点での卒業生、在学者、退学者の数と割合 (公表の際には、単にこれらの情報のみを公表するのではなく、学位プログラムのカリキュラムの在り方や、履修単位の登録上限設定の状況、G P A の活用状況、留学の位置づけといった修業期間・成績評価に関連する情報や、積極的な進路変更（他大学への転学や他学部への転部など）の有無、退学の理由（大学に起因するものと大学に起因しないものの別など）も踏まえた分析を付することが望ましい。） 関連する法令等：規則第 1 7 2 条の 2 第 1 項第 4 号 関連する調査等：「学校基本調査²」	・教務履歴や学校基本調査の調査過程において収集
	学修時間	・単位制度の趣旨を踏まえ、学生が授業内及び授業外で取り組む学修の平均時間を明らかにすることで、学生が、学位プログラムが期待する水準の資質・能力を身に付けるための一般的な前提条件を満たしているかについて、全体的な状況を明らかにする	・同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生が、当該学位プログラムに関連する授業内外それぞれの学修に費やした時間の平均値及び分布その他の全体的な状況 (各授業科目における到達目標の達成状況や履修単位の登録上限設定の状況と併せて分析を行い、公表することが有益) 関連する法令等：基準第 2 1 条	・学生へのアンケート調査を通じた収集 (※) 今後新たに調査・収集を行う大学においては、例えば以下のような手法での調査・収集が考えられる。 ・学修時間の集計単位：1 時間単位での把握 ・集計期間の選定：試験直前期や長期休暇期間などを除く平均的な一週間における学修時間 (※) 学修時間以外の生活時間の調査についても、学修成果・教育成果の把握・可視化の観点から併せて行うことも考えられる ・教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集

¹ 「平成 3 0 年度大学等卒業者の就職状況調査（4 月 1 日現在）」https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/05/1416816.htm

² https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/1267995.htm

情報		①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
② 教 学 マ ネ ジ メ ン ト を 確 立 す る 上 で 各 大 学 の 判 断 の 下 で 収 集 す る こ と が 想 定 さ れ る 情 報	「卒業認定・学位授与の方針」に定められた特定の資質・能力の修得状況を直接的に評価することができる授業科目における到達目標の達成状況	・ 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち、左記の科目により直接的に評価することができるものをどの程度の水準で備えているかについて、全体的な状況を明らかにする ・ 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち左記の科目により直接的に評価することができるものを獲得してゆく過程について、全体的な状況を明らかにする	・ 左記の授業科目の科目名、到達目標、到達目標と「卒業認定・学位授与の方針」との対応関係、成績評価基準及び成績評価手法 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち、左記の授業科目により直接的に測定することができるものの達成状況に関する全体的な状況	・ 教務システム等を活用した個々の学生の授業科目の履修履歴の収集
	卒業論文・卒業研究の水準	・ 学生が、学位プログラムが提供する教育の集大成として、どのようなテーマの卒業論文作成・卒業研究実施に取り組んでいるかを明らかにする ・ 学生が、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた専門教育に係る資質・能力を総合的にどの程度の水準で身に付けることができるかについて、全体的な状況を明らかにする ・ 専門教育に係る資質・能力以外のものについても、学位プログラムが提供する教育の集大成である卒業論文作成・卒業研究実施の過程で行われる学生の様々な活動を通じて「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けているかについて、全体的な状況を明らかにすることができる	・ 卒業論文・卒業研究に取り組んでいる学生の人数と割合 ・ 卒業論文・卒業研究の代表的なテーマ ・ 同一の学位プログラムに属するそれぞれの学生の卒業論文・卒業研究に対する評価基準（専門教育に係る資質・能力やその他の資質・能力に対する基準を含む） ・ 卒業論文・卒業研究に対する評価の平均値及び分布その他の全体の状況	・ 学内調査による代表的なテーマの収集 ・ 卒業論文・卒業研究の評価により明らかにすることができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力のうち専門教育に係る資質・能力との関係の整理 ・ 卒業論文作成・卒業研究実施の成果物に対する指導教員等の評価基準・評価手法の収集
	アセスメントテストの結果	・ 学生が、当該アセスメントテストにより測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得できているかについて、全体的な状況を明らかにする ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができるかについて、全体的な状況を明らかにすることができる	・ アセスメントテストにより測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（アセスメントテストにより測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるものか、等） ・ 同一の学位プログラムに属する学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況その他の全体的な状況	・ アセスメントテストにより測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができるアセスメントテスト（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべきアセスメントテスト）の特定 ・ 大学として結果を把握すべきアセスメントテストを受験した学生からの報告による結果の収集
	語学力検定等の学外試験のスコア	・ 学生が、当該試験により測定することができる資質・能力をどの程度の水準で獲得できているかについて、全体的な状況を明らかにする ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができるかについて、全体的な状況を明らかにすることができる	・ 学外試験により測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（学外試験により測定することができる資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるのか、等） ・ 同一の学位プログラムに属する学生の受験状況並びに結果の平均値及び分布状況その他の全体的な状況	・ 学外試験により測定することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・ 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる学外試験（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき学外試験）の特定 ・ 大学として結果を把握すべき学外試験を受験した学生からの報告による結果の収集

情報		①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
	資格取得や受賞、表彰歴等の状況	＜資格取得の状況＞ ・学生が、当該資格の取得のために求められる資質・能力を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする ・当該資格の取得により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力の一部を一定の水準で身に付けることができていることを明らかにする ＜受賞、表彰歴等の状況＞ ・学生が、当該受賞、表彰等のために求められる資質・能力を高い水準で身に付けることができていることを明らかにする ・当該受賞、表彰等により、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる場合には、学生が、当該資質・能力をどの程度の水準で身に付けることができているかを明らかにすることができる	＜資格取得の状況＞ ・資格の取得により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（資格取得により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等） ・同一の学位プログラムに属する学生における資格取得者の人数 ＜受賞、表彰歴等の状況＞ ・受賞、表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係（受賞、表彰等により証明される資質・能力は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定できるものか、当該資質・能力に関連するエビデンスに留まるものか、等） ・同一の学位プログラムに属する学生における受賞者・表彰者等の人数や具体的な例	＜資格取得の状況＞ ・資格取得により証明することができる資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる資格（学生による受験状況やその結果を大学として把握すべき資格）の特定 ・上記の資格の取得に関する試験等を受験した学生からの報告による結果の収集 ＜受賞、表彰歴等の状況＞ ・上記の賞や表彰制度等の受賞や表彰等により証明される資質・能力と「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力との関係の整理 ・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を直接的に測定することができる、又は当該資質・能力のエビデンスの一つとして用いることができる賞や表彰制度等の特定 ・上記の賞や表彰制度等について受賞し又は表彰等された学生からの報告による情報の収集
	卒業生に対する評価	・進学先の大学院や就職先の企業などにおける卒業生に対する評価を通じて、学位プログラムを修了した学生が、実際に「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力を身に付けているかについて、全体的な状況を明らかにする	・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力に照らした、卒業生に対する雇用主や進学先の指導教員からの評価やその代表例、その他の全体的な状況（進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）や卒業生からの評価と併せて分析を行い、公表することが有益）	・卒業生の雇用主や進学先の指導教員からのアンケート・ヒアリング等により収集
	卒業生からの評価	・学位プログラムにおける学修や教育が「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得に資するものであったかや、学位プログラムを通じて身に付けた資質・能力が、進学先や就職先でどのように役立っているかについて、全体的な状況を、進学・就職から一定期間経過した卒業生からの評価により明らかにする	・「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力の修得にあたって学位プログラムが果たした役割についての、卒業生からの評価 ・進学・就職等の進路毎に、どのような資質・能力が役立っているかについての、卒業生からの評価（進路の決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率等）や卒業生に対する評価と併せて分析を行い、公表することが有益）	・卒業生からのアンケート・ヒアリング等により収集

（２）学修成果・教育成果を保証する条件に関する情報の例

情報		①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
①大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において収集可能と考えられるもの	入学者選抜の状況	・入学者選抜の方法の明示や試験問題及び解答の公表により、「入学者受入れの方針」に即し、大学として求める資質・能力を有する者を入学者として適切に選抜していることを明らかにする ・入学者選抜の方法や合否判定の方法・基準等を明示することで、公正かつ妥当な方法により、多面的かつ総合的な評価・判定に基づき入学者選抜を実施していることを明らかにする	・各学位プログラムにおける個別学力検査の実施教科・科目、入試方法、その他入学者選抜に関する基本的な事項 ・合否判定の方法や基準 ・試験問題及びその解答 ・入試方法の区分に応じた受験者数、合格者数及び入学者数等 (各年度における「大学入学者選抜実施要項³」に基づく公表を実施することが想定される。)	・入試情報の収集
	教員一人あたりの学生数	・学生数に対して十分な教員を確保することで、密度の濃い授業や丁寧な履修指導が可能な環境であることを明らかにする	・大学全体としての教員と在籍する学生の人数比 ・学位プログラム毎の、専任教員と在籍する学生の人数比。 (公表の際は、単に人数比を公表するのではなく、クラスサイズや専任教員以外の教員・ＴＡ（ティーチング・アシスタント）・ＲＡ（リサーチ・アシスタント）等の活用状況などを踏まえた分析を付することが望ましい。) 関連する法令等：規則第１７２条の２第１項第３号 関連する調査等：「学校基本調査」	・人事記録等（学校基本調査を活用することも考えられる）
	学事暦の柔軟化の状況	・入学・卒業時期の選択肢や自由度を明らかにすることで、密度の濃い主体的な学修が可能とする環境や、留学等との接続が容易な環境であることを明らかにする	・大学としての学事暦の状況（具体的な授業期間など）（学位プログラムにより異なる場合は学位プログラム毎の状況） (各授業科目における到達目標の達成状況と併せて分析を行い、公表することが有益)	・学事暦に関する学内規定の確認
	履修単位の登録上限設定の状況	・履修単位の登録上限に関する制限やその例外を明らかにすることで、大学が、密度の濃い主体的な学修を可能としつつ、意欲・能力のある学生には更なる学修を可能とする環境を提供していることを明らかにする	・履修単位の登録上限制度の有無 ・制度の具体的な内容（上限単位数など） ・例外の具体的な要件（成績要件と追加登録が可能な単位数など） (各授業科目における到達目標の達成状況や学修時間と併せて分析を行い、公表することが有益) 関連する法令等：基準第２７条の２	・学内規定の確認
	授業の方法や内容・授業計画（シラバスの内容）	・学生と教員との契約書ともいえるシラバスについて、適切な到達目標や講義方法、講義計画、成績評価基準を定めると共に、学生の主体的な学びを助ける事前事後学修課題を提示することで、大学が、個々の授業科目を「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて適切に設計していることを明らかにする	・大学としてのシラバス作成に関する方針（どのような項目をどのような観点から記載しているかを説明するもの） ・個々の授業科目のシラバス（特に必修科目や選択科目については、可能な範囲で学位プログラム毎に編集されることが望ましい） (カリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の活用状況やナンバリングの実施状況との関係も併せて公表することが有益) 関連する法令等：規則第１７２条の２第１項第５号、基準第２５条の２第１項	・学内におけるシラバス作成に関する方針の確認 ・電子シラバスへの登録等を通じたシラバスの収集
	早期卒業や大学院への飛び入学の状況	・意欲や能力を備えた学生の多様な学修ニーズに対応できる選択肢が複数存在することを明らかにすると共に、当該選択肢の活用状況を明らかにする	・早期卒業及び大学院への飛び入学に関する要件 ・学位プログラム毎の早期卒業者・大学院への飛び入学者の人数及び割合	・早期卒業及び大学院への飛び入学に関する学内規定の確認 ・教務履歴の収集

³ 「令和２年度大学入学者選抜実施要項について（通知）」（https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2019/06/05/1282953_001_1_1.pdf）

情報		①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
	F D ・ S D の実施状況	・「卒業認定・学位授与の方針」に基づき教育の成果を最大化するため、当該方針に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義し、これを踏まえて最適なF D ・ S Dを実施していることを明らかにする	・「卒業認定・学位授与の方針」に沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像 ・大学として実施しているF D ・ S Dの内容（対象別の内容や頻度、参加率（どのような立場の者がどのような内容のF D ・ S Dに参加したかが分かることが望ましい）など） ・他大学や教育関係共同利用拠点との連携等によりF D ・ S Dを実施している場合は、連携して実施するF D ・ S Dの概要（連携先の名称や、F D ・ S Dの内容、頻度など） ・F D ・ S Dを担当する組織・部局を有する場合は、その概要（スタッフの人数や大学組織上の位置付けなど） 関連する法令等：基準第25条の3、第42条の3 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について⁴」	・F D ・ S Dの内容の収集
②教学マネジメントを確立する上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報	G P A の活用状況	・学位プログラム毎に、所属する学生それぞれのG P Aの平均値等を明らかにすることで、学生が各授業科目に定められた到達目標に全体的にどの程度到達しているかという学位プログラムの全体的な教育の達成状況を明らかにする ・G P Aを、留年や退学の勧告等の基準や、履修指導・学修支援のための基礎情報として用いていることを明らかにすることで、「卒業認定・学位授与の方針」に基づき、質の高い教育を提供していることを明らかにする	・大学全体としてのG P Aの算定方法（評語とG Pとの対応関係や、不可となった科目や履修登録を取り消した科目の扱い、など） ・学位プログラム毎のG P Aの平均値及び分布（入学年度や学期などの観点から分類した数値も併せて公表することが望ましい） ・G P Aの活用状況（以下のような活動等の判断基準としてG P Aを用いているか否か） ・学生に対する個別の学修指導 ・奨学金や授業料免除対象者の選定 ・履修上限単位制限の解除 ・進級・卒業判定、退学勧告 ・大学院入試の選抜 ・早期卒業や大学院への早期入学 （各授業科目における到達目標の達成状況と併せて分析を行い、公表することが有益） 関連する法令等：規則第172条の2第1項第6号 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」	・G P Aの算定方法に関する学内規定の確認 ・教務履歴などより収集
	カリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の活用状況	・「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえたカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを明らかにすることで、各学位プログラムが、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成していることを明らかにする	・学位プログラム毎のカリキュラムマップ・カリキュラムツリー（※） （※）カリキュラムマップやカリキュラムツリー以外の方法で、学位プログラムのカリキュラムにおいて、「卒業認定・学位授与の方針」との関係で過不足なく科目が配置されていることを検証している場合は、当該方法。 （授業の方法や内容・授業計画（シラバスの内容）やナンバリングの実施状況との関係も併せて公表することが有益） 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」	・カリキュラムマップ・カリキュラムツリー等の収集

⁴ 「大学における教育内容等の改革状況について（平成28年度）」https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1417336.htm

情報		①公表の意義	②公表することが考えられる内容	③公表する情報の収集等の方法
	ナンバリングの実施状況	大学が、ナンバリングの実施を通じて、学位プログラムを構成する個々の授業科目の教育課程上の水準や学位プログラム全体の体系性が整理された適切なカリキュラムを編成するための取組を行わっていることを明らかにする	- 大学としてのナンバリングに関する方針（どのような分類基準に基づいてナンバリングを実施しているかを説明するもの） - 学位プログラム毎のナンバリングを行った授業科目一覧（授業の方法や内容・授業計画（シラバスの内容）やカリキュラムマップ、カリキュラムツリー等の活用状況との関係も併せて公表することが有益） 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」	- 大学としてのナンバリングに関する方針の確認 - ナンバリング済みの授業科目一覧の収集
	教員の業績評価の状況	大学が、研究活動のみならず教育活動における業績を評価する仕組みを整え、教員が積極的に教育活動や教育改善に取り組む意欲を持つことができる環境を整えていることを明らかにする。	大学としての教員の業績評価に関する方針など 関連する法令等：規則第 1 7 2 条の 2 第 1 項第 3 号	大学としての教員の業績評価に関する方針の確認
	教学 I R の整備状況	教学マネジメントの基礎となる情報を収集する上で基盤となる教学 I R について適切な制度整備や人材育成を行っていることを明らかにすることで、教学マネジメントを行う体制を整えていることを明らかにする	- 大学として実施している教学 I R の主な内容（分析事例の紹介や、教学 I R をきっかけとする教学改善の事例の紹介など） - 教学 I R を担当する組織・部局の概要（スタッフの人数や大学組織上の位置付けなど） - 教学 I R に関する学内規則 関連する調査等：「大学における教育内容等の改革状況について」	教学 I R の主な内容の収集



金沢大学 教学マネジメント FACTBOOK 2023

発 行 : 金沢大学 教学マネジメントセンター
〒920-1192 石川県金沢市角間町
2024 年 3 月 発行
